# BusinessObjects Enterprise XI Release 2 リリース ノート

特許

Business Objects は、米国特許 5,555,403、6,247,008 B1、6,578,027 B2、6,490,593 および 6,289,352 を所有します。これらにより、Business Objects が提供および販売する製品は保護されます。

商標

Business Objects、Business Objects のロゴ、Crystal Reports、および Crystal Enterprise は、米国またはその他の国における Business Objects SA または該当する関連会社の商標または登録商標です。その他すべての商標は各社に帰属します。

著作権

Copyright © 2005 Business Objects. All rights reserved.

サードパーティ協力会社

本リリースの Business Objects 製品には、サードパーティ協力会社によって使用 許諾されたソフトウェアの再頒布が含まれている場合があります。こうした個別 のコンポーネントのいくつかは、使用する際に別途ライセンスが必要になること があります。次のサイトには、使用許諾を要求または許可したサードパーティ協 力会社のリストの一部と、関連する必要事項が掲載されています。

http://www.businessobjects.com/thirdparty (英語)

第1章	BusinessObjects Enterprise XI Release 2 リリース ノート	11
	リリース ノートについて	. 12
	BusinessObjects Enterprise XI とは	. 12
	サードパーティ協力企業とアプリケーション	. 12
	パート I パート I - XI R2 Solaris	
第2章	BusinessObjects Enterprise	15
	サポートされるプラットフォーム	. 16
	サポートされない Sun のパッチ	. 16
	デプロイメント	. 16
	スイートのインストール	. 17
	共存製品のインストール	. 17
	Broadcast Agent Publisher	. 18
	アップグレードおよび移行に関する問題	. 18
	リポジトリ	. 18
	セキュリティ	. 18
	データベースの問題	. 19
	Broadcast Agent Publisher	. 19
	各言語版の問題	. 19
第3章	Crystal Reports	21
	接続	. 22
	その他	. 22
第4章	Desktop Intelligence	25
	アプリケーションの動作	. 26

開発者向けライブラリ	29
全般	30
BusinessObjects Enterprise SDK	30
Library ファイル	30
OLAP Intelligence	31
アプリケーションの動作	32
各言語版の問題	32
パフォーマンス マネジメント	33
インストール	34
設定	34
アナリティック	34
対話型メトリックの傾向変動	35
メトリック予測	35
接続	35
Sybase ASE ODBC	35
Performance Manager	36
ダッシュボード	37
Dashboard Manager	37
Set Analysis	
日本語版	37
Web Intelligence	39
アプリケーションの動作	40
パート II パート II - XI R2 Windows	
BusinessObjects Enterprise	43
インストールとデプロイメント	44
Connection Server	47
アップグレードおよび移行に関する問題	47
	BusinessObjects Enterprise SDK Library ファイル  OLAP Intelligence アプリケーションの動作 各言語版の問題  パフォーマンス マネジメント インストール 設定 アナリティック 対話型メトリックの傾向変動 メトリック予測 接続 Sybase ASE ODBC Performance Manager ダッシュボード Dashboard Manager Set Analysis 各国言語版 日本語版  Web Intelligence アプリケーションの動作  パート II パート II - XI R2 Windows  BusinessObjects Enterprise インストールとデプロイメント Connection Server

	BusinessObjects Enterprise 6.x から BusinessObjects Enterprise XI Release 2 へのデータのインポート
	Crystal Enterprise から BusinessObjects Enterprise XI Release 2 へのデータ
	のインポート48
	インポート ウィザード48
	ドキュメンテーション 49
	Web アプリケーションと Windows アプリケーション 50
	セントラル管理コンソール50
	InfoView
	Live Office
	スケジュールに関する問題54
	ドキュメンテーション54
	セキュリティ 55
	開発に関する問題55
	ブラウザのサポート55
	Java InfoView
	ビューア57
	アプリケーション サーバーに関する問題58
	Web サーバーに関する問題58
	サーバーの管理58
	Page Server
	Auditor
	各言語版の問題60
第 10 章	Crystal Reports 61
	インストール
	設定62
	SQL Server 2005 の XML データ
	SQL Server 2005 のユーザー定義型
	アプリケーションの動作
	データ アクセス
	レポートの作成
	Java Reporting Component

	ドキュメンテーション66
	開発に関する問題67
	JDBC ドライバ
	Java Reporting Component (JRC)
	Crystal Reports for Visual Studio
第 11 章	Desktop Intelligence 69
	一般的な情報
	移行71
	ドリル72
	レポートの書式設定
	ドキュメントの保存
	印刷
	ブレーク
	スライス アンド ダイス55
	カテゴリの管理
	パブリケーションのスケジュール
	各言語版の問題
	ドキュメントの保存
	3-tier モードの Desktop Intelligence
第 12 章	開発者向けライブラリ 77
	全般
	Designer SDK
	Desktop Intelligence SDK
	ドキュメント ビューアのサンプル
	移行サンプル
	Report Engine SDK のサンプル
	Java SDK
	RAS SDK
	JSP チュートリアル
	各国言語版
	各言語版の問題
	各言語版の問題

	Crystal Reports Developer のサンブル	. 82
第 13 章	パフォーマンス マネジメント	83
	インストール	. 84
	アップグレードおよび移行に関する問題	. 85
	デプロイメント	. 86
	設定	. 88
	各国言語版	. 88
	日本語版	. 88
	全般	. 88
	スウェーデン語版	. 88
	接続	. 89
	Sybase ASE ODBC	. 89
	Dashboard Manager	
	ダッシュボード	
	アナリティック	
	対話型メトリックの傾向変動	
	マップ アナリティック	
	パレート チャート	
	Performance Manager	
	個人用目標ページ	
	Predictive Analysis	
	Process Analysis	
	2-tier 製品: Set Architect および Set Analyzer	
	ドキュメンテーション	. 97
第 14 章	インポート ウィザード	99
	全般	100
	ユーザー インターフェイス	100
	ユニバース	101
	ドキュメント	101
	Desktop Intelligence	101
	WebIntelligence 2.x から XI Release 2 へ	101

	その他	102
	パフォーマンス マネジメント	103
	全般	104
	判明している問題点	105
第 15 章	Intelligent Question	107
	Web Intelligence へのエクスポート	
	アンインストール後の InfoView の実行	
	パフォーマンス マネジメントからの起動	
	デフォルトのインストール場所	109
	断続的な NullPointerException	
第 16 章	OLAP Intelligence	111
	インストール	
	Essbase サポート	
	アプリケーションの動作	
	各言語版の問題	
	データ ソースへの接続	
	一般的な問題	
	ドキュメンテーション	
第 17 章	Portal Integration Kit	117
	SharePoint Web パーツ	
	インストール	
	セキュリティとログインの問題	
	表示に関する問題	
	Firefox ブラウザの問題	
	JSR168 ポートレット	
	- インストール	
	表示に関する問題	
	ドキュメンテーション	
第 18 章	レポート変換ツール	121
•	変換.	122

	ユーザー インターフェイス 123
	ログ ファイル
	セントラル管理コンソール (CMC)123
	ドキュメンテーション
第 19 章	セマンティック レイヤ 125
	Designer
	ビジネス ビュー マネージャ127
	Connection Server
第 20 章	Web Intelligence
	式言語
	セクション外のデータの参照130
	ReportFilter() 関数
	RunningSum() 関数 130
	各言語版の問題
	セルの書式設定
	セキュリティ 131
	制限事項
	エラー メッセージ
	ソースの変更
	チャート
	各言語版の問題
	ドリル
	ドキュメントのリンク
	データ プロバイダ
	カスタムの並べ替え
	Java レポート パネルと HTML クエリー パネル

BusinessObjects Enterprise XI Release 2 リリース ノート

### リリース ノートについて

このリリースノートでは、インストール時の注意、このリリースで確認されている問題の詳細、ユーザーへの重要な情報など、この製品リリースに関連する重要な情報を説明します。

この製品リリースには、Microsoft Windows プラットフォームと Sun Solaris プラットフォーム上の製品が含まれます。リリース ノートには、それぞれのセクションがあります。必要なすべてのプラットフォームに関する内容をお読みください。

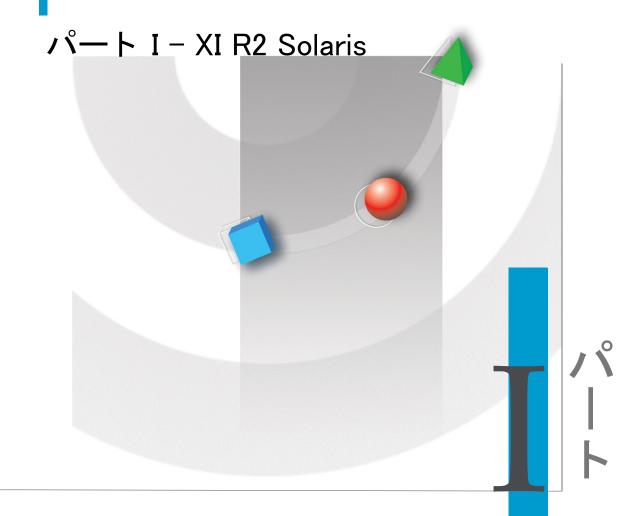
Business Objects ソフトウェアをインストールする前に、必ずこのドキュメントの内容をすべてお読みください。また、Business Objects のサポート Webサイトで、このリリースノートの発行後に提供される可能性のある追加の注意事項や情報も確認してください。

# BusinessObjects Enterprise XI とは

BusinessObjects Enterprise XI には、プレゼンテーション品質のレポート作成機能から詳細な分析まで、ユーザーの多様なニーズに対応する、Business Objects 製品ラインの多くの機能が集約されています。

# サードパーティ協力企業とアプリケーション

関連のライセンス情報やサードパーティ(アプリケーションなど)についての情報は、http://www.businessobjects.com/thirdparty(英語)を参照してください。



BusinessObjects Enterprise

### サポートされるプラットフォーム

システム要件およびサポートされるプラットフォームの全リストは、製 品ディストリビューションに付属の platforms.txt を参照してください。イ ンストール手順の詳細については、インストール ガイド (install.pdf) を 参照してください。

#### サポートされない Sun のパッチ

Sun Microsystems, Inc. によって、SPARC プラットフォーム用の特定の パッチが原因する多数のロード依存の"遅れ"により、アプリケーショ ンがスタートアップできない場合があることが、Sun Alert Notification 101995 で報告されました。

したがって、Business Objects の製品では、以下の Sun リンカー パッチ をサポートしません。

- "パッチ 109147-36 から 109147-39 が適用された Solaris 8
- "パッチ 112963-21 から 112963-24 が適用された Solaris 9

Business Objects は、上記の リンカー パッチの代わりに、以下の旧バー ジョンのパッチを使用されることをお勧めします。

- "パッチ 109147-26 が適用された Solaris 8
- "パッチ 112963-17 が適用された Solaris 9

Sun Service Plan アカウントをお持ちの場合は、次のリンクから Sun Alert Notification 101995 を参照できます。

http://sunsolve6.sun.com/search/document.do?assetkey=1-26-101995-1&searchclause=Loadable%20dependencies

# デプロイメント

desktop.war 内の "ceviewer.jsp" ページは Java InfoView で使用されませ ん。Java InfoView のデプロイメント時に、次のページでコンパイル エラー が発生することがあります。

http://<マシン名>:<ポート>/viewers/rpt/ceviewer.jsp

ceviewer.isp はいずれの Java InfoView ワークフローの一部でもないため、 上記の URL がリクエストされない限り、コンパイル エラーが認知され る可能性は低いでしょう。Websphere 6、Oracle 10g および Weblogic 8.1 に Java InfoView をデプロイメントすると、エラーが発生することがあり ます。

回避策:以下のいずれかを実行します。

- 181 行目を編集して "getServletContext()" を "getServletConfig().getServletContext()" に変更します。
- desktop.war ファイルから ceviewer.jsp を削除します。
- UNIX プラットフォーム上で実行する Web Application Server に Desktop.war を展開すると、Java InfoView ログオン ページの 1 つのオプ ションとして Windows AD 認証が提供されます。ただし、Windows AD 認 証は UNIX プラットフォーム上の Java InfoView ではサポートされませ

回避策: UNIX プラットフォーム上の Java InfoView では他の認証を選択 します。

### スイートのインストール

#### 共存製品のインストール

- この製品のベータ リリースでは、Solaris 9 および AIX 5.2 の新規インス トールのみサポートします。カスタム、拡張、システム、およびサイレ ント インストールはサポートしません。また、アンインストールもサ ポートしません。
- UNIX インストールでは、デフォルトで監査オプションが有効になってい ます。監査を無効にするには、スペースを押して監査オプションをクリ アしてからタブ キーを押し、Enter キーを押します。これ以外のすべての オプションでは、Tab キーを押す必要はありません。監査を無効にする 場合のみ、その必要があります。
- のポート設定をデフォルトから他の値に変更すると、Business Objects 製品スイートの終了時に接続サーバーがシャットダウンされま せん。

回避策: CMS をデフォルトのポート設定でインストールし、その値を変 更しないようにします。

### Broadcast Agent Publisher

- 複雑なスケジュール シナリオはパフォーマンスの低下を招く恐れがあ ります。
  - 回避策:複雑なスケジュールシナリオを使用しないようにします。
- 複数の宛先にパブリケーションをスケジュールし、その1つの宛先が「受 信ボックス」の場合、指定した受信ボックスより多くの受信ボックスに インスタンスが配信される可能性があります。

# アップグレードおよび移行に関する問題

- リポジトリ内に明示的なユーザー アカウントを持っていないサード パーティ Business Objects 6.5 ユーザーは、自分の個人用コンテンツ(個 人用ドキュメント、カテゴリ、および受信ドキュメントなど)を BusinessObjects Enterprise XI Release 2 にインポートできません。
  - 回避策: BusinessObjects Enterprise XI Release 2 に個人用コンテンツをイ ンポートするすべてのサードパーティ ユーザーに対して E6.5 で明示的 なユーザーアカウントを作成してから、インポート処理を開始します。
- UNIX インストールで、インプレース アップグレードはサポートされな くなりました。

# リポジトリ

すべての未定義の SQL クエリーは、CMS で処理されません。その結果、予 期しない結果が返される場合があります。

### ヤキュリティ

Java Windows Active Directory (AD) 認証を使用する場合、ASCII 文字以外の 文字を使用したユーザー名でログオンできません。これは、Java API の制限 です。

### データベースの問題

文字列に基づく等号記号を使用したレコード選択式を使用する場合、文字列 長を最大にするために XML データにスペースが詰められていると、XML イ ンスタンスフィールドが値を返さないことがあります。

回避策: XML 要素を文字列型として定義するとき、次の方法で詰められたス ペースを削除することができます。

```
<xsd:simpleType name = "myString">
       xsd:restriction base = "xsd:string">
          <xsd:maxLength value="255"/>
          <xsd:whiteSpace value = "collapse"/>
       </xsd:restriction>
     </xsd:simpleType>
     <xsd:element name="col1">
     <xsd:complexType>
        <xsd:sequence>
           <xsd:element name="col1" type="myString" />
        </xsd:sequence>
     </xsd:complexType>
```

### **Broadcast Agent Publisher**

パブリケーションが予期しない出力を行う場合、誤って設定されたプロファ イルターゲットが原因の可能性があります。

回避策: Solaris イベント ログ (例:/var/adm/messages) をチェックして、該 当するかどうかを調べます。該当する場合、プロファイル ターゲットのデ バッグ情報があれば、記録されます。

# 各言語版の問題

BusinessObjects Enterprise の日本語版 UNIX のインストールで、日本語の文字 が正しく表示されません。これは、不適切なフォント名が使用されている場 合に発生するエラーです。この問題を解決するには、使用しているコンピュー タにインストールしたとおりのフォント名を使用します。必要なフォントが コンピュータにない場合に、これに代わるフォントを作成することはできま せん。この問題に対処するには、必要なすべてのフォントをコンピュータに インストールします。

Crystal Reports

# 接続

- Solaris で Crystal Reports からの Essbase 接続が必要な場合、サーバーを 開始する前に、TMPDIR 環境変数に長さが8 文字以下の値を明示的に設 定しておく必要があります。
- IBM JDK 1.4.2. は Liquid Data Server への JDBC データ ドライバ接続をサ ポートしません。

### その他

- Microsoft Visual Studio 2002 で StartupService タグのないプロジェクトを アップグレードしようとしても、そのプロジェクトは更新されません。 回避策: ソリューション ファイルではなく、プロジェクト ファイルから 更新します。
- Safari 内で .NET webform ビューアを使用するレポートのエクスポートま たは印刷用のエクスポートダイアログボックスが、空白ページとして表 示されることがあります。これは、Safari によってページがキャッシュさ れるためです。エクスポート ダイアログ ボックスを最新表示することに より、この問題は回避できます。
- UNIX 上で Teradata ODBC レポートを実行する場合、特定の設定により 安定性に問題が生じることが確認されています。Teradata ODBC レポー トのみを実行する専用のレポート サーバーを設定されることをお勧め します。同一の設定では、Teradata JDBC のほうがより安定していること が確認されています。
- Java Reporting Component (JRC) では、レコード選択に使用されるパラ メータ値を変更しても、データが最新表示されません。これらのインス タンスでは、データを一緒に保存しないレポートを使用して、常にデー タを最新表示することをお勧めします。

desktop.war 内の "ceviewer.jsp" ページは Java InfoView で使用されませ ん。Java InfoView の導入時に、次のページでコンパイル エラーが発生し ます。http://<マシン名>:<ポート>/viewers/rpt/ceviewer.jsp

その回避策には2つあります。第1の回避策は、181行目を編集して "getServletContext()"を "getServletConfig().getServletContext()" に変更し ます。もう1つの回避策は、desktop.war ファイルから ceviewer.jsp を削 除します。

ceviewer.jsp はいずれの Java InfoView ワークフローの一部でもないため、 上記の URL がリクエストされない限り、コンパイル エラーが認知され る可能性は低いでしょう。Websphere 6、Oracle 10g および Weblogic 8.1 に Java InfoView をデプロイメントすると、エラーが発生することがあり ます。

Desktop Intelligence



# アプリケーションの動作

スケジュールされたジョブとしての Desktop Intelligence ドキュメントの 印刷は、PDF 形式のみがサポートされ、ポストスクリプト印刷はサポー トされません。

回避策:使用するプリンタで PDF 形式を処理できない場合、PDF からポ ストスクリプトへの変換コマンドを定義する"フィルタ"解決策を使っ て、UNIX サーバーをカスタマイズする必要があります。(サーバーに接 続している) ローカル プリンタには、通常のフィルタ解決策を使用でき ます。(別のサーバーに接続している) リモート プリンタまたは (IP ア ドレスを使ってスタンドアロンの) ネットワーク プリンタについての解 決策は、以下で説明します。

1. UNIX サーバー上に Ghostscript があり、すべてのユーザーがそれを 使用可能なことを確認します。

Ghostscript は PDF ファイルのインタプリタを含む一連のソフト ウェアで、ビルドインで PDF の印刷機能を持たないプリンタでの PDF の印刷を可能にします。次のサイトからダウンロードできます。

http://www.cs.wisc.edu/~ghost/

2. プリンタフィルタ定義を、次のように作成します。

cat > /etc/lp/fd/pdf2ps.fd

Input types: any Printer types: any Printers: any Filter type: slow

Command: /usr/local/bin/gs -q -sDEVICE=pswrite -dNOPAUSE -sOutputFile=¥|'lp -d remoteprinter \_'\_

3. フィルタに所有権と許可を割り当てます。そうしないと、daemon が フィルタにアクセスできない可能性があるからです。

chown lp:lp /etc/lp/fd/pdf2ps.fd; chmod 664 /etc/lp/fd/pdf2ps.fd

4. このフィルタを印刷システムに登録します。

/user/sbin/lpfilter -f pdf2ps -F /etc/lp/fd/pdf2ps.fd

5. すべてのフィルタを検証します。

/use/bin/pfilter -f all -l

- 6. リモートプリンタを登録します。 lpadmin -p remoteprinter -s 10.6.5.1.5 -I simple
- 7. ローカル プリンタを登録します。 lpadmin -p pdfprinter -v /dev/null -I postscript
- 8. ローカル キューのジョブの受け付けを許可し、ローカル キューの出 力を有効にします。 enable pdfprinter accept pdfprinter
- 2-tier モードの Desktop Intelligence では、ユニバースのオーバーロード がサポートされません。
- Desktop Intelligence で、オブジェクト レベルのセキュリティがサポート されません。

# 4 Desktop Intelligence アプリケーションの動作

開発者向けライブラリ



# 全般

- すべての Business Objects 開発者ドキュメントの入手方法
  - 1. 次の URL から Developer Zone (英語) にアクセスします。 www.businessobjects.com/products/dev zone/default.asp
  - 2. Developer Library のリンクをクリックします。

### BusinessObjects Enterprise SDK

BusinessObjects Enterprise SDK は、3-tier アプリケーションのみをサポー トします。2-tier アプリケーションの開発はサポートされません。

# Library ファイル

使用しやすいように、必要なライブラリ ファイル (JAR または DLL) は Web Service および Report Engine サンプル アプリケーションと共にパッ ケージ化されています。ただし、Business Objects 製品と共に提供される ライブラリ ファイルを、製品開発のために常時使用する必要がありま **OLAP** Intelligence

# アプリケーションの動作

OLAP Intelligence レポートで、アクション URL が常にブラウザの新しい ウィンドウで開かれます。そのため、アクションの openDocument URL で sWindow URL パラメータを使用すると、エラーが発生する場合があり ます。

回避策: openDocument URL で sWindow パラメータを使用しないように します。

sWindow パラメータで、ターゲットのレポートをブラウザの現在のウィ ンドウで開くか、新しいウィンドウで開くかを決定します。

# 各言語版の問題

インタラクティブ ビューアで、チャート内の文字が正しく表示されない 言語があります。

ヨーロッパ言語の拡張文字を有効にするには、次の JAVA\_OPTS 設定を 使用します。

- -Dbusinessobjects.olap.fonts.path=/<installdir>/bobje/enterprise115/ aix rs6000/crpe/mw/fonts
- -Dbusinessobjects.olap.fonts.default=arial.ttf

ここで installdir は、BusinessObjects Enterprise をインストールしたディ レクトリです。

アジア言語の拡張文字を有効にするには、次の JAVA\_OPTS 設定を使用 します。

- -Dbusinessobjects.olap.fonts.path=/usr/lpp/X11/lib/X11/fonts/TrueType/
- -Dbusinessobjects.olap.fonts.default=mtsans\_

<lang code>.ttf

ここで lang code に日本語の場合は j を、韓国語の場合は k を指定しま

アジア言語以外のオペレーティング システムを使用するサーバーで InfoView をアジア言語で使用するには、OLAP Intelligence 接続のログオ ン エラーを防ぐために、サーバーにアジア言語パックがインストールさ れている必要があります。

パフォーマンス マネジメント

#### インストール

- Business Objects では、パフォーマンス マネジメントをインストールし、 その接続を設定してから、すべてのパフォーマンス マネジメント サー バーを起動することをお勧めします。さらに、以下の事項が推奨されま
  - 1. セントラル管理コンソールにログインし、PMUser が作成されている ことと、すべてのサーバーが有効であり、実行していることを確認 します。
  - 2. InfoView にログインし、パフォーマンス マネジメントのセットアッ プでパフォーマンスマネジメントを設定します。
- テーブルスペースのページサイズが最低 32,768 バイトない限り、IBM DB2 アカウントを使ってパフォーマンス マネジメント リポジトリを正 しく作成できません。
- UNIX プラットフォームへのパフォーマンス マネジメント製品のインス トール時に、セットアップで、AFScheduleProgram を実行するユーザー プロファイルを定義するプロンプトが表示されません。

回避策:インストールの終了後に、AFSchedule プログラムを手動で作成 します。手順については、『BusinessObjects 6.x から XI Release 2 への移 行ガイド』の「Application Foundation オブジェクトの移行について」の 章を参照してください。

# 設定

パフォーマンス マネジメントの設定後に、ターゲット データベースがな くなります。

# アナリティック

"戦略マップ"アナリティックに、〈file://〉のようなリンクを使用する背 景画像を、ローカルまたはリモート ファイル サーバーから表示できませ  $\lambda_{\circ}$ 

回避策:Tomcat フォルダへの相対リンク(例:"../images/Demo/ globe.jpg")か、またはインターネットへの絶対リンク(例: <http:// www.image.com/image1.jpg>) を使用します。

このリリースでは、"メーター"アナリティックおよび"メトリックの傾 向変動"アナリティックを SVG/FLASH モードで電子メールの添付ファ イルとして送信することはできません。

- FLASH 形式のアナリティックを開いて [名前をつけて保存] をクリック すると、問題が発生します。アナリティック タイトルが表示されず、形 式が SVG になります。
- 1 つの目標またはメトリックに連結する複数のメトリック ツリーがある 場合、最初のメトリックツリーのみがリストされます。
- @\$#%<sup>\*</sup>\*& のような文字を名前に含むレポートに移動できません。
- sWindow=new parameter を使用すると、ドキュメントは新しいウィンドウ 内に表示されるはずですが、実際はそうではありません。

#### 対話型メトリックの傾向変動

- "対話型のメトリックの傾向変更"アナリティックを Flash で編集して 「OK」をクリックすると、表示モードが SVG に変わります。
- 新しいアナリティックを保存せずにキャンセルしても、そのアナリ ティックが作成されます。
- "対話型メトリックの傾向変動"を Firefox に表示すると、"デフォルトの 目標タイプ"ではない目標データが、カスタマイズされた列内の不適切 な位置に表示されます。

#### メトリック予測

モデル ベースのメトリックを基にした"メトリック予測"アナリティッ クを編集しようとすると、エラーが発生します。

### 接続

#### Sybase ASE ODBC

- univarchar データ型はサポートされません。
- パフォーマンス マネジメントでは、「分析要素の作成」の「分析要素名 のオブジェクト〕および「分析要素コードのオブジェクト〕オブジェク トに ASCII 以外のデータは使用できません。

### Performance Manager

6.5 から BO XI R2 へ移行すると、パブリケーションが「個人用目標」タ ブに表示されない可能性があります。

#### 回避策:

- リポジトリを 1. BusinessObjects BusinessObjects 6.5 から BusinessObjects XI R2 に移行します。
- サーバーを開始します。
- ストラテジ ビルダで、[組織] タブをクリックします。 3.
- 4. 「Everyone」の役割を選択して、「編集」をクリックします。
- 「次へ」をクリックして、「役割の更新」ページに移動します。 グループは、移行した 6.5 リポジトリのルート フォルダ名に「動的 (Business Objects クエリー)] と定義されています。
- 6. 「グループ] リストで、「Everyone] を選択します。
- [次へ]をクリックして、[役割の更新]をクリックします。
- 8. 「メンバーシップの最新表示」をクリックします。
- 9. その他の役割がすべて Everyone グループの属していることを確認 します。
- ユニバース クエリーを基にした両極目標で、最初の上限許容限度に指定 された上限許容値が1つしかないものを作成すると、この許容限度は表 示されません。
  - 回避策: "上限許容度" と"外部上限許容度"の両方に、同じ許容限度を 選択します。その結果、"上限許容度"設定のみしかない場合も同じ許容 限度になります。
- Strategy Builder で Everyone ロールを更新しようとすると、エラーが発生 します。
- Performance Manager は DB2 Zseries (OS390) でサポートされていません。 それ以外のすべてのパフォーマンス マネジメント製品は、OS390 でサ ポートされています。詳細については、Business Objects カスタマー サ ポート サイト (http://support.businessobjects.com/documentation/ supported platforms/xi release2/default.asp) (英語) のサポートされるプ ラットフォームのドキュメントを参照してください。

### ダッシュボード

複数のメニューとサブメニューを含む複数のダッシュボードを作成しよ うとすると、ブラウザの応答がなくなります。さらに、アナリティック をメニューとサブメニューに追加するとスクリプト エラーが発生し、ア ナリティックが表示されません。

#### **Dashboard Manager**

- メトリックを作成すると、言語によっては、意味のないメトリック名が 自動的に生成される場合があります。システムのデフォルト名を使用せ ずに、独自のメトリック名を入力する必要があります。
- メトリック ツリーのメトリック ツリー デフォルト ビュー ウィンドウ の「閉じる」ボタンが反応しません。
- 会社用ダッシュボードをカスタマイズすると、会社用フォルダリストか らそのダッシュボードの名前が消えます。ダッシュボード名を表示する には、InfoView から一度ログアウトして、ログオンしなおす必要があり
- 集計を含むメトリックを最新表示することはできません。

#### Set Analysis

セントラル管理コンソールで分析に対して手動で許可されたアクセス権 が、Set Analysis によって使用されません。

### 各国言語版

Svbase 上で、日本語文字とフランス語の強調文字を使用する分析要素を 作成できません。

#### 日本語版

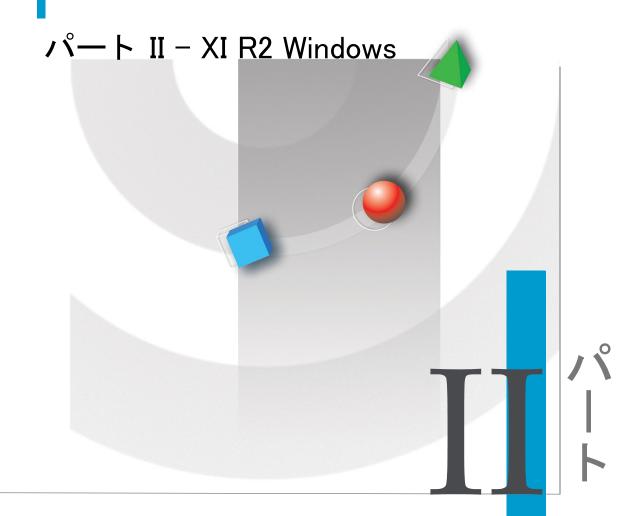
- エラー メッセージが正しく表示されません。
- "マップ"アナリティックでは、Graph プロパティの表示テキストフィー ルドで、円マークが "¥" として表示されます。

# 7 パフォーマンス マネジメント 各国言語版

Web Intelligence

## アプリケーションの動作

PDF または RTF 形式で保存すると、アラビア文字の順序が変わります。



BusinessObjects Enterprise



### インストールとデプロイメント

- システム要件およびサポートされるプラットフォームの全リストは、製品ディストリビューションに付属の platforms.txt を参照してください。インストール手順の詳細については、インストールガイド (install.pdf) を参照してください。
- BusinessObjects Enterprise コンポーネントをインストールする前にすべてのウィルス対策ソフトウェアを無効にしてください。インストール後に、それらのソフトウェアを有効にしてください。
- JDK、JRE、Tomcat などのサードパーティ アプリケーションでは ASCII 文字以外の文字を使用したディレクトリがサポートされないため、 BusinessObjects Enterprise XI R2 をそのようなディレクトリにインストー ルすることはできません。
- BusinessObjects Enterprise XI をアンインストールして再びインストール すると、前に使用していた MySQL インストールのテーブルが CMS リポジトリとして使用されます。
- ASCII 文字以外の文字を使用したユーザー名のユーザーは、Java Windows AD 認証を使用して BusinessObjects Enterprise XI R2 にログオンすること はできません。これは、Java API の制限です。
  - ACSII 文字以外の文字を使用したユーザー名は Kerberos でサポートされません。これは、Kerberos の既知の制限です。Kerberos V プロトコルは国際化されておらず、使用する文字セットの指定を行なうことはできません。
- カスタム インストール時に Tomcat をインストールするよう選択して も、WCA (Web Component Adapter) 画面が表示される場合があります。
- Microsoft SharePoint を使用して.NET InfoView でレポートを追加すると、 エラーメッセージが表示されます。
  - 回避策:.NET WCA を Microsoft FrontPage Server Extensions の一部の "Microsoft SharePoint の管理" IIS Web サイトに展開しないでください。
- BusinessObjects Enterprise は、MySQL 4.1.9 をインストールし、デフォルトでポート 3306 で起動するように設定します。すでにこのデフォルトのポート番号で実行している MySQL の別のバージョンがインストールされている場合、BusinessObjects Enterprise がインストールするバージョンの MySQL は起動しません。
  - 回避策: BusinessObjects Enterprise をインストールする前に、MySQL がコンピュータにインストールされており、どのポートで起動するよう設定されているかを確認します。ポート 3306 で起動するよう設定されている場合は、BusinessObjects Enterprise のインストール時に MySQL に異なるポート番号を指定します。

- UNIX で、MySQL サーバーを BusinessObjects Enterprise とともにインス トールする場合、mysql コマンドを使用してローカルの MvSQL サーバー にアクセスすることはできません。env.sh を作成してから MySQL クライ アントを実行する必要があります。
- 以下のワークフローの結果は、仕様に基づいています。
  - 1. BusinessObjects Enterprise XI Release 2 をパフォーマンス マネジメン ト機能とともにコンピュータAにインストールする。
  - 2. コンピュータ B で Desktop.war をもう一度展開する。
  - 3. コンピュータ B からデスクトップ アプリケーションにアクセスす る。

結果: ログオン ページでシステム フィールド (CMS 名とポート番号) を 変更できない。

- Windows XP マシンに BusinessObjects Enterprise XI Release 2 をインス トールする場合、インストール ウィザードの 「クライアント インストー ルまたはサーバー インストールを選択してください。〕手順のデフォル ト オプションは、[サーバー インストールを実行] オプションです。 Desktop Intelligence または Designer をインストールするには、「クライア ントインストールを実行〕を選択する必要があります。
- BusinessObjects XI Release 2 をアンインストールすると MvSQL 4.13a サービスが削除されますが、CMS データを含むすべての MvSQL ファイ ルはローカル マシンに残ります。 ただし、 コンソール モードを使用して BusinessObjects のアンインストールを実行した後に、次の手順を実行し て MvSQL を起動することは可能です。
  - 1. すべての ファイル (ibdata\*、 (localhost name).pid、 innoDB 〈localhost name〉.err のすべて)を削除するか、それらのファイルが C:\Program Files\Business Objects\MvSQL\mathbf{Ymvsql-pro-4.1.13awin32¥data にある場合はこのディレクトリから削除します。
  - 2. MySQL 設定ファイル C:\Program Files¥Business Objects\MySQL\mysgl-pro-4.1.13a-win32\my-medium.ini(または、含 まれている他の mv-\*ini ファイルのいずれか 1 つを選択)を、 %SYSTEMROOT% ディレクトリにコピーします。
  - 3. ファイル %SYSTEMROOT%¥mv-medium.ini(またはコピーした mv-\*ini ファイル) の名前を mv.ini に変更します。
  - 4. %SYSTEMROOT%¥mv-iniを編集して、"[client]" および "[mvsqld]" セ クションの下の "socket" から始まる行の前に "#" を追加してコメ ントアウトします。

## 9 BusinessObjects Enterprise インストールとデプロイメント

5. MySQL の bin ディレクトリで次のコマンドを実行して、スタンドアロン コンソール MySQL アプリケーションを起動します。

C:\footnote{C:\footnote{Frogram} Files\footnote{Business Objects\footnote{MySQL\footnote{Fmysql-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Files\footnote{Files\footnote{Fmysqld-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Fil

6. これで、MySQL コマンドを実行できます。たとえば、MySQL および BOE115 データベースに接続するには、新しいコンソール ウィンドウで次のコマンドを実行します。

C:\footnote{Program} Files\footnote{Business} Objects\footnote{MySQL\footnote{Pmysql-pro-4.1.13a-win32\footnote{Files\footnote{Business}} -P 3306 -u BusinessObjects -p<password> -D BOE115

7. 接続に成功したことを確認するため、次の mysql コマンドを入力した後に、コンソールにユーザー "root" および "BusinessObjects" が表示されているかをチェックします。

mysql> select user, host, password from mysql.user
>;

• CrystalReports\_11\_5\_2005.msm の自動検出は、Visual Studio 2005 ではサポートされません。

回避策: Visual Studio 2005 で CrystalReports\_11\_5\_20005.msm の自動検出を有効にするには、CrystalReports115List.xml ファイルの名前をCrystalReports115Listxml123 に変更するか、またはこのファイルを別の場所にコピーするか削除します。この XML ファイルの名前を単に変更しても、自動検出は機能しません。

• RAS XI スタンドアロンから RAS XI Release 2 へのアップグレードを実行すると、インストールウィザードの最後の画面に、アップグレードの実行方法に関して誤った情報が示されます。

回避策: RAS XI スタンドアロンから RAS XI Release 2 ヘアップグレード する場合は、インストール ウィザードの最後の画面に記載されている手順は無視してください。この場合、データベースの移行を実行する必要 はありません。インストールの後に、CMS を手動で起動する必要があるだけです。

BusinessObjects XI Release 2 をインストールする前に .NET Framework
 2.0 Beta 2 がインストールされている場合、.NET InfoView に OLAPI レポートを保存できません。

回避策: BusinessObjects XI Release 2 をインストールしてから、.NET Framework 2.0 Beta 2 をインストールしてください。

- FRS が停止すると、コマンド ラインで指定された -tempDir ディレクト リが削除されます。FRS によってシステム クリティカルな要素が削除さ れるのを防ぐには、-tempDir c:\FRStempDirectory などの一意の一時ディ レクトリを選択します。
- desktop.war 内の "ceviewer.isp" ページは Java InfoView で使用されませ ん。Java InfoView のデプロイメント時に、次のページでコンパイル エラー が発生することがあります。

http://<マシン名>:<ポート>/viewers/rpt/ceviewer.jsp

ceviewer.isp はいずれの Java InfoView ワークフローの一部でもないため、 上記の URL がリクエストされない限り、コンパイル エラーが認知され る可能性は低いでしょう。Websphere 6、Oracle 10g および Weblogic 8.1 に Java InfoView をデプロイメントすると、エラーが発生することがあり ます。

回避策:以下のいずれかを実行します。

- 181 行目を編集して "getServletContext()" を "getServletConfig().getServletContext()" に変更します。
- desktop.war ファイルから ceviewer.isp を削除します。

#### Connection Server

Connection Server がサーバー モードで実行中の場合、Web Intelligence クエ リーは実行できません。

### アップグレードおよび移行に関する問題

#### BusinessObjects Enterprise 6x から BusinessObjects Enterprise XI Release 2 へのデータのインポート

BusinessObjects Enterprise 6.5 からアップグレードする場合、ユーザーが リポジトリ内に明示的なユーザー オブジェクトを持たない限り、サード パーティユーザーのすべての個人用コンテンツ情報は、BusinessObjects Enterprise XI Release 2 にインポートできません。個人用コンテンツ情報 には、個人用ドキュメント、カテゴリ、および受信ボックスドキュメン トが含まれます。

回避策: BusinessObjects Enterprise XI Release 2 に個人用コンテンツをイ ンポートするすべてのサードパーティ ユーザーに対して BusinessObjects Enterprise 6.5 で明示的なユーザー オブジェクトを作成 してから、インポート処理を開始します。

# Crystal Enterprise から BusinessObjects Enterprise XI Release 2 へのデータのインポート

- Windows AD 認証を使用して、Crystal Enterprise 10 から BusinessObjects Enterprise XI Release 2 ヘアップグレードする場合、Windows AD ユーザーのグループへのマッピングが自動で正しく行われないことがあります。この問題が発生した場合は、弊社のカスタマー サポート Web サイトから適切な修正ファイルを取得してください。
- Crystal Enterprise からのアップグレード時に、現在のデプロイメントで 複数の Job Server、Page Server、またはその他のサーバーを使用している 場合、各サーバー グループの1つのサーバーしかアップグレードされな いことに注意してください。
- Crystal Enterprise からアップグレードする場合、MySQL のインストール オプションは使用できません。MySQL データベースを使用した Crystal Enterprise から BusinessObjects Enterprise XI R2 へのアップグレードはサポートされません。
- Crystal Enterprise 10 Report Application Server スタンドアロンを BusinessObjects Enterprise XI R2 にアップグレードする場合、これら2つ のアプリケーションが大きく異なるため、元のソフトウェアがアンイン ストールされ、新しいソフトウェアがインストールされることに注意してください。

#### インポート ウィザード

- 受信ボックスのインポートを選択した場合、ユーザーの受信ボックスだけがインポートされることに注意してください。インポートする受信ボックスのユーザーは、自動的に選択およびインポートされません。
- BIAR のリポジトリ オブジェクトをインポートする場合、BIAR データ ソースのすべてのリポジトリ オブジェクトがインポートされます。
- BIAR ソース ファイルから、"ユーザーとグループ"または"フォルダと オブジェクト"をインポートできない場合があります。これは、ソース ファイルに壊れたオブジェクトが存在する場合に発生します。検出され た壊れたオブジェクトとそれ以外のオブジェクトを BIAR ファイルから 取得できなくても、インポート ウィザードでエラーが表示されないこと に注意してください。

- 多数のユーザーとグループを BusinessObjects Enterprise XI Release 2 へ インポートするときに、タイムアウトが発生することがあります。 回避策:タイムアウトを防ぐには、サードパーティ認証が無効になって いることを確認してください。サードパーティ認証の無効化は、すべて のオブジェクト数の集計が終了して、「完了」をクリックする前に行ない
- ダイナミック カスケード プロンプトを使用している場合、「リポジトリ オブジェクトのインポートのオプション]で「すべてのリポジトリ オブ ジェクトをインポートする]を選択する必要があります。その他のオプ ションを選択すると、インポート時にプロンプトが壊れます。
- Business Objects 5x ユニバースをインポートすると、グループに制限が作 成され、制限の複製がユーザーに対して作成されます。その結果、ユー ザーに対して同一の制限が2つ生成されます。これは誤動作です。
- Informix Connect for IDS9.4 の 5.x リポジトリから接続が正しく移行され ません。

#### ドキュメンテーション

ます。

- 『BusinessObjects 5.1.x から XI Release 2 への移行ガイド』および 『BusinessObjects 6.x から XI Release 2 への移行ガイド』にある表の 2 行 目に、BusinessObjects バージョン 5.1.6 ~ 5.19 に関連する計算について の問題が誤って記載されています。実際には、この行には Business Objects 6.0 に関連する計算の問題が記載されています。
- 『BusinessObjects 5.1.x から XI Release 2 への移行ガイド』および 『BusinessObjects 6.x から XI Release 2 への移行ガイド』の 「UniverseName() 関数」、「Unicode フォント」および「小数の精度」の節 では、Desktop Intelligence で導入された変更内容が示されています。現 時点のマニュアルでは、このことが明白に記載されていません。これら の節の前に「Desktop Intelligence の変更点」という見出しを補足する必 要があります。

### Web アプリケーションと Windows アプリケー ション

#### セントラル管理コンソール

WebLogic での webcompadapter.war の展開に問題がある場合、WebLogic でデプロイメント ディスクリプタをロードできないことが原因の可能 性があります。

回避策:WebLogic Builder ツールを使用する場合、web.xml ファイルを展 開する前に変更を加える必要があります。web.xml を次のように変更後、 WebLogic Builder ツールで webcompadapter.war ファイルを保存します。

SOCKS URI convention. socks://&lt:version #>;[<username:password&gt;@]&lt;hostname:port&gt;[&amp;]

TXT や EXE などのサポートされる形式のファイルを CMC から大量に 公開すると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

URL エラー: Web サーバーはブラウザから不正または不完全なデータを 受信しました。不足しているデータ引数:

このメッセージは次のように訂正される必要があります。

CMC で 20 MB を超えるファイルを公開できません。

CCM で CMS の監査オプションを有効にすると、InfoView およびセント ラル管理コンソールの「スケジュール後にインスタンスをクリーン アッ プ オプションが無視され、インスタンスがクリーン アップされません。 このオプションは、デフォルトのエンタープライズ出力先以外のあらゆ る出力先へのオブジェクトのスケジュール時に、使用可能です。

#### **InfoView**

- InfoView からドキュメントのスケジュールを行なうとき、「イベント] オプションまたは「サーバー グループ] オプションを展開して折り たたむと、その前に設定した他のオプションが失われます。
- 「テキスト専用プリンタはサポートされていません。プリンタを変更 してください。」というエラーが、Desktop Intelligence ドキュメント を、プリンタの IP アドレスを指定して「カスタム プリンタ」で出力 するようにスケジュールすると表示されます。

- HTML または PDF として表示される REP ドキュメントを CSV 形式 に保存すると、生成された CSV ファイルは UTF-8 互換になります。 ドキュメントに、アクセント付きの文字や日本語文字が含まれている 場合、ドキュメントは Microsoft Excel で正しく表示されません。 Unicode (UTF-8) テキスト プロセッサで CSV ドキュメントを開いて 表示することはできます。Microsoft Excel でドキュメントを開く場合 は、InfoViewで Excel として保存することをお勧めします。
- インタラクティブ編集モードでは、ドキュメントとの接続が定期的に 失われ、代わりに InfoView のホーム ページが表示されます。
- ドキュメントが同じウィンドウで開かれるようにリンクされている 場合、子ドキュメントは親ドキュメントの一部に組み込まれるのでは なく、親ドキュメントに置き換わります。つまり、親ドキュメントに 移動することができなくなります。
- Sun Java アプリケーション サーバー上の Java InfoView を有効にする には、 (Sun Java Application Server InstallDir > ¥domains ¥ (domain name>¥config¥server.policy にあるデフォルトの Java2 セキュリティ設 定を、次の例に示すように更新する必要があります。

#### grant {

```
permission java.lang.RuntimePermission "loadLibrary.*";
permission java.lang.RuntimePermission "queuePrintJob";
permission java.net.SocketPermission "*", "connect, listen, accept";
     permission java.io.FilePermission "<<ALL
          FILES>>","read,write,execute,delete";
// ポイントベース バグ 4864405 の回避策
 permission java.jo.FilePermission
"${com.sun.aas.instanceRoot}${/}lib${/}databases${/}- ", "delete"; permission java.io.FilePermission "{java.io.tmpdir}${/}- ", "delete"
permission java.util.PropertyPermission "*", "read,write";
permission java.lang.RuntimePermission "modifyThreadGroup";
```

- desktop.war を SAP Web Application Server 6.40 (WinSQL) にデフォルト の設定で展開すると、エラーが発生します。これは、SAP Web Application Server の問題として SAP で確認されています。「SAP Note #892729」を参 照してください。この SAP Note に、SAP が今後提供する SP によってこ の問題が修正されることが説明されています。ただし、このテキストの 執筆時点では、この SAP Note はまだリリースされていません。SAP Note #892789 にアクセスできない場合の回避策をここに示します。ただし、こ れは Microsoft SQL Server 2000 SP3 で実行されている SAP Web Application Server 6.40 (WinSQL) の場合のみ有効です。SQL Server 2000 SP3 を使用している場合は、次の手順を実行します。
  - 1. SQL Enterprise Manager で、"-g1024"を SQL Server の起動パラメー タリストに追加します。

- 2. SQL Query Analyzer T, "exec sp\_configure 'network packet size (B)', '8196'; reconfigure with override"を実行します。
- 3. SQL Server を再起動し、変更が反映されていることを確認します。
- 4. desktop.war を展開します。
- InfoView でドキュメントを電子メールに送信するには、最初にドキュメ ントを選択してから、メインツールバーで「送信」ボタンをクリックし、 リストから [電子メールへ] を選択します。 [Job Server のデフォルト値 を使用する〕オプションをオフにした場合は、プレースホルダを使って 設定を指定できます。.NET InfoView では、"ビューアのハイパーリンク" プレースホルダをメッセージ テキストボックスに追加できます。Java InfoView には、"ビューアのハイパーリンク"プレースホルダがありませ ん。回避策として、テキストボックスに手動で「%SI\_VIEWER\_URL%」と 入力します。"ビューアのハイパーリンク"プレースホルダは、ドキュメ ントを表示する URL で置き換えられます。
- InfoView では、オブジェクトを特定の出力先にスケジュールするときに、 ユーザーはプレースホルダを使って設定を指定できます。Java InfoView では、"電子メール" および "ユーザーのフル ネーム" プレースホルダ を、メッセージ テキストボックスに追加できます。.NET InfoView には、 "電子メール"および "ユーザーのフル ネーム" プレースホルダがリス トにありません。回避策として、テキストボックスにそれぞれ手動で 「%SI EMAIL ADDRESS%」および「%SI USERFULLNAME%」と入力します。
- BOE が最初にインストールされたときに .NET Framework のバージョン 2.0 が存在していなかった場合、.NET Framework 2.0 の .NET InfoView で ドキュメントをスケジュールして送信すると、エラーが発生する場合が あります。

回避策: C:\Program Files\Business Objects\BusinessObjects Enterprise 11.5¥Web Content¥Enterprise115¥InfoView にある web.config 内の タグに、手動で 〈xhtmlConformance <system.web> </system.web> mode="Legacy"/> タグを追加します。この回避策については、次のよう に web.config ファイルのコメントにも記載されています。

<!--

To run on ASP.NET 2.0, InfoView requires the setting: <xhtmlConformance mode="Legacy"/> For asp.net 2.0, the installer will automatically replace (or has replaced) the comment below with this setting.

<xhtmlConformance mode="Legacy"/>

- .NET InfoView に読み込まれるレポートは、大量のデータを返すレポート の場合、タイムアウトエラーが返される場合があります。
  - 回避策:設定ファイルで、デフォルトのタイムアウト期間の設定を次の ように変更します。
  - 1. 次の場所にある設定ファイルを開きます。
    - C:\forall C:\forall Windows\forall Microsoft.NET\forall Framework\forall v1.1.4322\forall CONFIG\forall C:\forall Microsoft.NET\forall Microsoft.\forall machine.config
  - 2. <a href="httpRuntime">httpRuntime</a> executionTimeout="90" 行を次のように変更します。 <a href="httpRuntime">httpRuntime</a> executionTimeout="200"
- OpenDocument URL の sInstance パラメータ ("sInstance=last"、"user"、ま たは "param") を使用して、最後に成功したインスタンス、所有者別の最 後のインスタンス、またはパラメータ値別の最後のインスタンスを表示 することができます。ただし、インスタンスをクエリーするときに に指定される並べ替え基準が間違っています。 OpenDocument OpenDocument で使用される並べ替え基準は、インスタンスの作成時刻、 つまり、インスタンスがスケジュールされた時刻に基づいており、イン スタンスの完了時刻ではありません。

回避策: OpenDocument でクエリーの並べ替え基準を変更します。

- 1. java/jsp OpenDocument の場合は、次の場所にある helper\_js.inc ファ イルを開きます。
  - ..¥businessobjects¥enterprise115¥desktoplaunch¥viewers¥cecommon¥ .net OpenDocument の場合は、次の場所にある helper is.aspx ファイ ルを開きます。
  - ..¥Program Files¥Business Objects¥BusinessObjects Enterprise 11.5\text{YWebContent}\text{Enterprise}115\text{InfoView}\text{viewers}\text{vecommon}
- "SI\_CREATION\_TIME"という文字列を検索し、"SI\_LAST\_RUN\_TIME" に置換します。
- .NET InfoView で、Essbase または DB2 の OLAP データ ソースを基にレ ポートを作成するとき、キューブのリストページがロードされません。

#### Live Office

- Microsoft Word 2003 で、レポート ビューの一部分をコピーしてドキュメ ントの別の場所に貼り付け、ビューを最新表示すると、レポート ビュー のコピーした箇所が表示されなくなります。
- Microsoft Excel で、チャートの凡例を右クリックすると、[ドリル] オプ ションがアクティブになります。チャートの凡例はドリルダウンできな いので、このオプションはアクティブになるべきではありません。

### スケジュールに関する問題

- Web Intelligence ドキュメントは、Excel 形式または PDF 形式で再スケ ジュールできません。キャッシュ前の設定により、これらのオプション が間違って表示される場合があります。
- 以下のアクセス権を持たないサード パーティによるパブリケーション のスケジュールは失敗します。
  - オブジェクトをフォルダに追加する
    - ユーザーによる、インスタンスの下へのコンテンツ オブジェクトの 作成を許可します。
  - オブジェクトに対するユーザーの権限を変更する
    - ユーザーによる、コンテンツ オブジェクトの表示権限を与えるユー ザーの選択を許可します。

別のユーザーが「デフォルト」の出力先へパブリケーションをスケジュー ルできるようにするには、パブリケーションの所有者が、[スケジュー ル] ロールに加え、これらのアクセス権を許可することが必要です。

### ドキュメンテーション

- 『BusinessObjects Enterprise XI 管理者ガイド』のコマンド ライン オプ ション -cleanup の説明で、「サーバーがリスナー プロキシをクリーン アップする頻度を分単位で指定します」と記述されていますが、実際に は、Event Server により指定値の半分の分数間操作が行われます。たとえ ば、-cleanup 10 の場合、Event Server は 5 分ごとにスレッドをクリーン アップします。
- Crystal Reports Offline Viewer のインストールについての情報は、 『InfoView ユーザーズ ガイド』の「Crystal Reports Offline Viewer」を参照 してください。
- 『BusinessObjects Enterprise XI 管理者ガイド』のコマンド ライン オプ ション-threads の説明で、「指定サイズのスレッド プールを使用します。 デフォルトは、1 リクエストにつき 1 スレッドです」と記述されていま すが、-thread パラメータの実際の動作は、CMS が初期化してワーカー を取得するワーカー スレッド プールのサイズに依存します。最大は 150、最小は12です。パラメータを指定しない場合、デフォルトは50で す。

#### セキュリティ

- Java Windows Active Directory (AD) 認証を使用する場合、ASCII 文字以 外の文字を使用したユーザー名でログオンできません。これは、Java API の制限です。
- Netegrity Siteminder を使用してシングル サインオンの Windows Active Directory (AD) 認証を有効にするには、次の手順を実行します。
  - 1. CMC の [認証] 管理エリアに移動します。
  - 2. [Windows AD] タブをクリックします。
  - 3. [SiteMinder オプション] で、[SiteMinder シングル サインオン] の 値を"有効"に変更し、「更新」をクリックします。SiteMinder およ びそのインストール方法の詳細については、SiteMinder のマニュアル を参照してください。

#### 開発に関する問題

#### ブラウザのサポート

Firefox や Netscape などのインターネット ブラウザでは、ダブルバイト文字 はサポートされません。ダブルバイト文字を含むレポートは、これらのブラ ウザで正しく動作しません。

#### Java InfoView

Sun Application Server 8 Update 1 を実行している場合、InfoView からダッ シュボードを作成、表示、または変更できません。

#### 回避策:

InfoView を使用するには、以下のアクションを適用して、XML/XSLT プ ロセッサの競合の可能性を避ける必要があります。

#### BusinessObjects Enterprise 開発に関する問題

1. WEB-INF/sun-web.xml ファイルで、以下の例のように、クラスロー ダ デリゲーション ポリシーを true に設定します。

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?> <!DOCTYPE sun-web-app PUBLIC "-//Sun Microsystems, Inc.//DTD</pre> Application Server 8.0 Servlet 2.4//EN" "http://www.sun.com/software/appserver/dtds/sun-web-app\_2\_4-0.dtd"> <sun-web-app xmlns="http://java.sun.com/xml/ns/j2ee"> <context-root>businessobjects/enterprise11/desktoplaunch</context-root> <class-loader delegate="true"/> </sun-web-app>

2. デプロイメントされたアプリケーションで、次の内容の JSP スクリ プトを作成(または、このコードを既存の Web アプリケーションの スクリプトに追加)します。

System.setProperty("iavax.xml.transform.TransformerFactory", "org.apache.xalan.processor.TransformerFactoryImpl");

- 3. InfoView にアクセスする前に、手順2の JSP スクリプトを実行しま す。これで、正しい XML トランスフォーマが、Business Objects ア プリケーションで動作するように設定されます。
- BusinessObjects Enterprise の Java InfoView へのログオン時に、「システ ム]フィールドにサーバーの IP アドレスは使えません。この問題を回避 するには、CMS (Central Management Server) のホスト名を使用してログ オンします。
- システムのプロパティが適切に設定されていないと、InfoView を正しく 展開できません。

回避策:以下のプロパティを JSP ファイルに設定するか、または SAP ア プリケーションサーバーにグローバルで設定します。

System.setProperty("org.xml.sax.driver", "org.apache.xerces.parsers.SAXParser");

- ActiveX プリント コントロールを使用して DHTML ビューアから印刷で きるようにするには、以下の MIME に対して gzip 圧縮が無効になってい ることを確認してください。
  - application/x-epf
  - application/x-ack
  - application/x-eor
  - application/x-etf
  - application/x-emf

Oracel 10G サーバーまたは SAP アプリケーション サーバーを使用して いる場合、ダブルバイト文字の表示で問題が発生する場合があります。 回避策: desktop.war や isfadmin.war ファイルを展開する前に、対応する web.xml の <filter> および <filter-mapping> 要素のコメント化を解除する よう変更します。

#### ビューア

- 式名またはデータベース フィールド名に "{" または "\" のいずれかの 文字が使用されているレポートは、ビューアで表示することができませ  $\lambda_{\circ}$
- RAS サーバーを使用する場合は、新しいデータベース ログオンの形式を 使用してください。元の形式は次のとおりです。

user= 値

password= 値

新しい形式は次のとおりです。

user-dbservername.dabasename= 値

password-dbservername.databasename= 値

新しいデータベース ログオンの形式により、データベース ログオン情報 のプロンプトを再び表示することなく、ビューアでレポートを表示する ことができます。

- アプリケーションサーバーを使用しているときに、 Oracle 10g OutputStream が既に受信されているというエラーが表示される場合は、 desktop.war ファイルの web.xml で viewer.usejspwriter コンテキスト パラ メータを"true"に変更します。
- Oracle 10g アプリケーション サーバーを使用しており、OutputStrream の 取得済みエラーが発生した場合、desktop.war ファイルで viewer.userjspwriter を"true"に設定します。これで問題が解決しない場 合、error.jsp ファイルで JSTL タグを使用しないように変更します。
- RAS サーバーを使用する場合は、新しいデータベース ログオンの形式を 使用してください。元の形式は次のとおりです。

user= 値

password= 値

新しい形式は次のとおりです。

user-dbservername.databasename= 値

password-dbservername.databasename= 値

新しいデータベース ログオンの形式により、データベース ログオン情報 のプロンプトを再び表示することなく、ビューアでレポートを表示する ことができます。

### アプリケーション サーバーに関する問題

InfoView を SAP にデプロイメントすると、Infoview エンサイクロペディ アが機能しなくなる場合があります。

回避策: InfoView の SAP へのデプロイメント時に、web.xml の encyclopedia.disable.gzip というコンテキスト パラメータを "True" に設 定する必要があります。これで、Java のエンサイクロペディアの gzip ア クションが無効になり、InfoView が動作するようになります。

### Web サーバーに関する問題

Microsoft の IIS (Internet Information Server) の安定性とパフォーマンスを向 上するには、次のディレクトリにある machine.config ファイルを変更します。

<WindowsDirectory>¥Microsoft.NET¥Framework¥ <InstalledFrameworkVersion¥>CONFIG¥...

### サーバーの管理

#### Page Server

CMC で指定されている処理制限を超える数のレコードを含むレポート を Page Server で表示すると、レポートの最初のページは、エラーを返さ ずに正しく生成されます。

Microsoft の IIS (Internet Information Service) の安定性とパフォーマンス を向上するには、次のディレクトリにある machine.config ファイルを変更 します。〈Windows ディレクトリ >\text{YMicrosoft.NET\text{YFramework}\text{InstalledFrameworkVersion}\text{YCONFIG\text{Y}}

| 設定                         | デフォルト値(.NET<br>Framework 1.1) | 推奨値    |
|----------------------------|-------------------------------|--------|
| maxconnection              | 2                             | 12 * N |
| maxIoThreads               | 20                            | 100    |
| maxWorkerThreads           | 20                            | 100    |
| minFreeThreads             | 8                             | 88 * N |
| minLocalRequestFreeThreads | 4                             | 76 * N |

推奨値のいくつかは、サーバー上の CPU の数を伴う式を使用していま す。各式内の CPU 数は、変数 N で表されます。ハイパースレッディン グが有効な場合の設定では、物理的 CPU 数ではなく、論理的 CPU 数を 使用する必要があります。たとえば、ハイパースレッディングが有効な 4 つのプロセッサのサーバーを使用している場合、式の N の値は 4 では なく8になります。

詳細については、次のサイトの「ASP.NET アプリケーションから Web サービス要求を行うと、競合、パフォーマンスの低下、およびデッドロッ クが発生する」を参照してください。http://support.microsoft.com/kb/ 821268/ja

#### **Auditor**

XI Release2 で監査機能を使用するユーザーは、Unix/Linux 環境上の MvSQL 監査データベースに接続する監査ユニバースを使用する、28 の Crsytal Reports 形式のパッケージ化済み監査レポートをインストールし て使用することができます。カスタム監査レポートの作成にも、このユ ニバースを使用することができます。

### 各言語版の問題

- Solaris および AIX のプラットフォームを使用して、中国語、日本語、ま たは韓国語で セントラル管理コンソール (CMC) を実行する必要がある 場合、WCA(Web Component Adapter)をホストする J2EE アプリケー ション サーバーで中国語、日本語、または韓国語のロケールを使用する ことが必要です。ロケールを設定するには、LANG および LC ALL の各 環境変数を設定してから J2EE アプリケーション サーバーを起動しま
- WebSphere 5.1 または WebSphere 6.0 を導入している場合、アジア言語の ロケールを使用して InfoView の基本設定ページを正しく表示できないこ とがあります。

回避策: WebSphere で UTF-8 サポートを有効にする手順は次のとおりで

- 1. 〈WebSphere〉/AppServer/properties/encoding.properties で、各行に 「xx=UTF-8」を挿入して保存します。
- 2. -Dclient.encoding.override=UTF-8 を Java 仮想マシン(JVM)に渡し ます。
- .NET InfoView で、アジア言語パックがサーバー マシンとクライアント マシンにインストールされていない場合、計算メンバー ダイアログ ボッ クスが一部のアジア言語で正しくロードされません。

回避策:サーバーマシンとクライアントマシンにアジア言語パックをイ ンストールします。以下の操作を実行して、Microsoft Windows を実行し ているマシンに言語パックをインストールします。

- 1. 「スタート」〉「コントロール パネル」〉「地域と言語のオプション」 をクリックします。
- 2. 「言語」タブで、「東アジア言語のファイルをインストールする」を 選択して [OK] をクリックします。
- 3. マシンを再起動します。

Crystal Reports



#### インストール

- システム要件およびサポートされるプラットフォームの全リストは、製 品メディアに付属の platforms.txt を参照してください。インストール手順 の詳細については、インストール ガイド (install.pdf) を参照してください。
- BusinessObjects Enterprise コンポーネントをインストールする前にすべ てのウィルス対策ソフトウェアを無効にしてください。インストール後 に、それらのソフトウェアを有効にしてください。

### 設定

Microsoft Visual Studio 2003 で開発された Crystal Reports Web アプリ ケーションは、イメージ ハンドラ仮想ディレクトリを ASP.NET 2.0 下で 実行するよう変更されると、画像を正しく表示できなくなることがあり ます。 イメージ ハンドラは ASP.NET 1.x 下で機能しますが、ASP.NET 2.0 では機能しません。

回避策:アプリケーションとイメージ ハンドラ仮想ディレクトリの両方 を、ASP.NET 1.1 下で実行するようにします。この設定は IIS マネージャ で行えます。

### SQL Server 2005 の XML データ

文字列 XML インスタンス フィールドを基にし、"等しい" 演算子を使用 するレコード選択式は、値を返すことができません。この問題は、XML ドキュメント内の文字データでは、文字列長を最大にするためにスペー スが補足されることが原因で発生します。余分なスペースが式に影響を 及ぼします。

回避策:選択式内では余分なスペースは文字列の最後に移動されるため、 式には影響しません。代わりに、XML要素に文字列型を定義するときに、 次のように余分なスペースを削除するよう定義することもできます。

```
<xsd:simpleType name = "myString">
 <xsd:restriction base = "xsd:string">
  <xsd:maxLength value="255"/>
  <xsd:whiteSpace value = "collapse"/>
 </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
<xsd:element name="col1">
<xsd:complexType>
 <xsd:sequence>
  <xsd:element name="col1" type="myString" />
```

</xsd:sequence>

</xsd:complexType>

- XML フィールドが単純な内容のみを含む場合は、レポートで XML 形式 の値のみを表示できます。
- XML フィールドが複雑な種類の内容や属性を含む場合は、レポートで フィールドの階層構造を表示できません。
- 特定の XML 文字列型の XML インスタンスは、フィールド エクスプロー ラに表示できません。XML 文字列型は以下の通りです。
  - token
  - language
  - NMTOKEN
  - Name
  - ID
  - NCName
  - anvURI
- フィールドを XML テーブルのサブ コンポーネントに再マッピングする ことができません。フィールドを XML テーブルにマッピングするとき に、ターゲットテーブルの最上レベルの列のみしか表示されません。
- XML インスタンス フィールドに対して "グループ化" をサーバー上で行 う場合、XML メソッドでは group by 句を使用できないという MS SQL Server のエラー メッセージが表示されることがあります。
- SQL 式エディタで XML インスタンス フィールドを基にした SQL 式 フィールドを作成すると、"無効なオブジェクト名です"というエラー メッセージが表示されることがあります。
- XML インスタンス フィールドが同じインスタンス名で、XML テーブル を基にしたリンクレポートを表示すると、"相関名が FROM 句内で複数 回指定されました"というエラー メッセージが表示されることがありま す。
- ユーザー定義型(UDT)テーブルを基にしたレポートで、UDTテーブル の最初のリレーショナル フィールドが削除されていると、レポートの ロードに失敗します。

回避策:データベース テーブルのフィールドを追加します。

#### SQL Server 2005 のユーザー定義型

UTD フィールドを基にした SQL 式フィールドを作成すると、エラー メッセージが表示されることがあります。

回避策: SQL 式のコマンド内の"/"を"."に変更します。

設計時に、汎用データベース テーブルにマップされた UDT フィールド を含むテーブルを基にしたレポートのデータ ソースの場所を設定した 後で、その UDT フィールド内の子フィールドがレポートから削除されず に残ります。

### アプリケーションの動作

Crystal Reports ドキュメント (RPT 形式) を Microsoft Excel 形式で保存 するようスケジュールすると、そのレポートに NULL 値または空の値を 持つ文字列型のパラメータが含まれている場合、その操作によってプロ グラムがクラッシュします。これは、Crystal Reports が Excel ドキュメン ト内に情報を埋め込むようになったことが原因で、次のリリースの Live Office では Excel ドキュメントを最新表示できるようになります。

回避策:以下のいずれかを実行します。

Live Office 情報の埋め込みを無効にすることによって GPF を回避す るには、次のレジストリ値をゼロ以外に設定して Live Office をオフ にします。

HKLM/HKCU]\Software\Business Objects\Suite 11.5\Crystal Reports\Export

値の名前: "DisableExportLiveOfficeSupport"

値の型: DWORD

- Live Office 機能を維持しながら GPF を回避するには、レポートに NULL 値または空の値を持つ文字列型のパラメータを含まないよう にします。
- Crystal Reports XI Release 2 では、XML スキーマ内に targetNamespace セットがない場合、SQL Server 2005 XML フィールドの読み取りをサ ポートしません。
- テーブルが IDataReader クラスを基にしている場合、複数のテーブル リンクはサポートされません。これは IDataReader クラスの制限で す。

### データ アクヤス

ネイティブ XML ドライバの最新バージョンの制限一覧が記載されたド キュメントは、弊社のテクニカル サポート サイトから入手することがで きます。

### レポートの作成

- 選択式のロケールまたはコンテンツのロケールの値を見つけるには、適 切な特殊フィールド(選択式のロケールまたはコンテンツ ロケール)を レポートに含め、レポートの中から値を表示します。
- 動的プロンプトまたは値の一覧のカスケードを含むプロンプトを使用す るコマンド オブジェクトを今バージョンの BusinessObjects Enterprise リ ポジトリに追加すると、正しく機能しません。このコマンド オブジェク トを使って作成したレポートのデータを最新表示すると、エラーが返さ れます。
- XML 要素に文字列の種類を定義するとき、次のように定義するとセルの 余白を削除することができます。

```
<xsd:simpleType name = "myString">
    <xsd:restriction base = "xsd:string">
         <xsd:maxLength value="255"/>
         <xsd:whiteSpace value = "collapse"/>
    </xsd:restriction>
</xsd:simpleType>
<xsd:element name="col1">
<xsd:complexType>
    <xsd:sequence>
         <xsd:element name="col1" type="myString" />
    </xsd:sequence>
```

</xsd:complexType>

レポートで2つのコマンド(1つはパラメータを使用するレポート用、も う1つはパラメータを使用しないプロンプトの設定用)を使用する場合 は、2 つのコマンド オブジェクトを使用する必要があります。1 つは、プ ロンプトの値の一覧を設定するためのパラメータなしのオブジェクト で、もう1つはレポートを設定するためのパラメータなしのオブジェク トです。

Crystal Reports ではユニバースでレポートを作成するためのネイティブ Sybase 接続がサポートされないため、ネイティブ Sybase 接続を基にした Crystal Reports でサポートされる接続にマップされていないユニバース のレポートをセントラル管理コンソール (CMS) または InfoView から表 示しようとすると、頻繁にデータベース ログオン ボックスが表示されま す。詳細については、Knowledge Base Article c2018352 を参照してくださ 11,0

#### Java Reporting Component

保存データを含むレポートの場合は、レコード選択で使用されるパラ メータ値を変更しても、データは最新表示されません。

回避策:保存データを含むレポートは使用しないでください。

### ドキュメンテーション

- Crystal Reports オンライン ヘルプで説明されている [結果の最大行数] オプションは、今バージョンでは利用できません。
- ドキュメントに記載されていない新しい関数 CountHierarchicalChildren (GroupingLevel) が今バージョンで追加されました。この関数を使うと、 子レベルがない場合に階層グループ ヘッダーまたはフッターを非表示 にすることができます。

CountHierarchicalChildren(GroupingLevel)

GroupingLevelは、既存のグループのレベルを決定する関数です。

CountHierarchicalChildren (GroupingLevel) は、グループ階層の指定レベル に対する直属の子階層グループ数を返す関数です。孫およびそれ以降の グループは、カウントから除外されます。

ここでは、グループの詳細レコード数はカウントされません。そのため、 全階層を対象にすると count ({field}) と結果が異なります。count ({field}) 関数は詳細レコードをカウントします。

### 開発に関する問題

#### JDBC ドライバ

LiquidData JDBC ドライバでは、次のコードが失敗します。

ResultSet rs; ResultSetMetaData rsmd = rs.getMetaData(); int colType = rsmd.getColumnType(i);

#### Java Reporting Component (JRC)

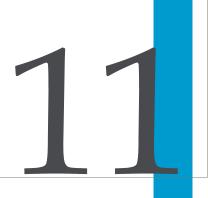
- JRC では、Report Designer Component で作成した割合要約レポートがサ ポートできません。割合要約レポートを JRC で使用するには、レポート を Crystal Reports 9 またはそれ以降のバージョンで保存し直してくださ
- JRC では、相対パスから動的画像を含むレポートをサポートできません。

#### Crystal Reports for Visual Studio

- ユーザー定義型(UDT)テーブルを元にして作成されたレポートでは、 UDT テーブルの最初のリレーショナル フィールドが削除されていると、 レポートのロードに失敗します。
- コマンド オブジェクトと動的パラメータを含んだレポートでは、両者が 循環参照を形成していると、レポートのロードに失敗します。たとえば、 コマンド オブジェクトが自分を参照している動的パラメータを参照し ている場合などがこれに該当します。
  - 対処方法としては、コマンド オブジェクトの値に対してプロンプトする ような動的パラメータを作成し、そのあとでコマンド オブジェクトから 値を読み取る2つめの動的パラメータを作成します。
- OpenDocument 関数を使って RAS Server グループを使うレポートを表示 する場合は、対話型モードを使用してください。OpenDocument 関数を 使って Page Server グループを使うレポートを表示する場合は、非対話型 モードを使用してください。

# 10 | Crystal Reports 開発に関する問題

Desktop Intelligence



### 一般的な情報

Desktop Intelligence をインストールすると、すべての言語が製品と共に インストールされますが、最初のログオン時には Desktop Intelligence は 英語で起動します。

回避策:次のように言語を手動で変更します。

- 1. 「ツール」メニューの「オプション」をクリックします。
- 2. 表示されたダイアログ ボックスの [一般] タブを開き、一覧から言 語を選択します。
- 上記の説明に従って Desktop Intelligence で言語を変更した場合は、ド キュメントのロケールもそれに合わせて変更しないと、選択した言語に 関連付けられている数値の形式が適用されません。ロケールを変更しな い場合、英語の数値形式が使用されます。

回避策:言語を変更するときに、必ず「言語」ボタンをクリックしてく ださい。

- Desktop 製品(Desktop Intelligence および Designer)で、現在の言語を設 定できる一覧([ツール] > [オプション] > [一般] タブ)に、言語名が 常に英語で表示されます。
- 新しいセッションをオフライン モードで開始するには、最初にオンライ ン モードでログインして CMS に接続する必要があります。この操作に よって、.lsi ファイルが最新表示されます。
- 3-tier モードで作業するには、最初にクライアント マシンに Desktop Intelligence をインストールしてから InfoView にログオンし、Desktop Intelligence ドキュメントを作成、変更または編集して、.jre または .net ファイルをダウンロードします。
- ユーザー インターフェイス ロケール (UIL) とユーザー フォーマット ロ ケール(UFL)が一致しないドキュメントの目付オブジェクトにフィル タを適用すると、レポートの表示が空になります。
- データ プロバイダおよび Connection Server については、OUT 変数を使 用する Teradata ストアド プロシージャは Business Objects でサポートさ れません。
- Desktop Intelligence ドキュメントを InfoView ポータルから開くと、レ ポートマップにセクションが表示されません。
  - 回避策: HTML オプション[セクション毎] または[両方]を指定して ドキュメントを公開します。
- Desktop Intelligence ドキュメントをスケジュールし、IP アドレスを入力 して「カスタムプリンタ」オプションを選択すると、スケジュールは失 敗します。

- Desktop Intelligence から BusinessObjects 6.x ドキュメントのデータ ソー スを変更することはできません。
- Desktop Intelligence から REP ファイルを HTML として保存する場合、両 端揃え(水平)のブレークは使用できません。
- リポジトリからレポートをインポートすると、どのカテゴリにも関連付 けられていないレポートが、「カテゴリなし」カテゴリに表示されません。
- 開いていないドキュメントをエクスポートするために、そのドキュメン トの HTML オプションをクリックして参照しようとしても、「HTML オ プション]ダイアログボックスは表示されません。
- "InCurrentPage"を含む式または変数をコンテキストとして定義する場 合、レポートを XLS、HTML、TXT または RTF 形式で保存すると、対応 する計算がそれらの形式のファイルに表示されません。
- Microsoft Windows NT または UNIX プラットフォームの場合、IBM DB2 UDB では OUT パラメータを伴うストアド プロシージャを実行できませ h.
- BusinessObjects Enterprise XI Release 2 のセキュリティ メカニズムでは、 ドキュメントが CMS から削除された場合、CMS からインポートされた ドキュメントをローカルで開くことができません。

回避策:この状況を回避するには、ドキュメントを CMS からインポート した後に明示的に保存します。これにより、ドキュメントが後で CMS か ら削除されてもドキュメントを開くことができます。

#### 移行

- BusinessObjects 6.x と BusinessObjects XI Release 2 が混在している環境 では、InfoView 6.x ポータル内から 3-tier モードの BusinessObjects 6.5 を 使用して BusinessObjects 6.x ドキュメントを開くことはできません。
  - 回避策:この状況では、Windows の「スタート」バーから 3-tier モード の Business Objects を起動した場合にのみ 3-tier モードの BusinessObjects を使用して BusinessObjects 6.x ドキュメントを開くこと ができます。また、次の条件を満たしている必要があります。
  - BusinessObjects 6.x が、BusinessObjects XI Release 2 よりも前にイン ストールされている必要があります。
  - InfoView 6.x リポジトリを指す .rkey ファイルが locdata フォルダに コピーされていない場合は、手動でコピーする必要があります。

## 11 Desktop Intelligence 一般的な情報

 BusinessObjects 6.x が既にインストールされているマシンに Desktop Intelligence XI R2 をインストールした場合、Microsoft VBA の使用(フルクライアント SDL を使用する VBA アプリケーションまたは VBA プロシージャを含むドキュメントなど)はサポートされません。

回避策: Desktop Intelligence XI R2 をインストールする前に BusinessObjects 6.x をアンインストールしてください。

#### ドリル

- 分析要素名が 255 文字を超えている場合、ドリル ツールバーのドロップ ダウン リストの矢印アイコンは表示されません。
- クロスタブの本体にある分析要素はドリルできません。
- 凡例からドリル ダウンまたはドリル要素を指定してドリルすることは できませんが、ドリル アップすることはできます。
- ドリル モードで特定の操作を実行すると、チャートのラベルの方向が変わる場合があります。

#### レポートの書式設定

- [セルの書式設定] ダイアログ ボックスの [数値] タブにある [負数] テキスト ボックスで負数の値の書式を指定する場合は、書式の前にマイナス記号 (-) を含める必要があります。たとえば、小数点以下 3 桁の負数の書式を指定するには、「-0.000」と入力する必要があります。
- リンクされたテーブルで、[テーブルの書式設定] ダイアログ ボックスの [ページ毎にブロックを繰り返す] オプションを選択する場合は、このオプションをすべてのテーブルに適用することをお勧めします。すべてのテーブルに適用しない場合、ブロックが重なることがあります。
- レポートでは、ページ毎に繰り返すように設定されたブロックが、後続の各ページの先頭にある別のブロックのヘッダーにくっつく場合があります。

回避策:必要に応じて2つのテーブルの間に空のセルを挿入し、繰り返されるブロックがヘッダーにくっつかないようにします。

• ブロックまたはセルの表示がページ レウアウトの 70% を超える場合、 [すべてのページで繰り返す] オプションは適用されません。これは、2 ページ以降でブロックが重ならないようにするためです。

回避策:ブロックまたはセルがページレイアウトの70%を超える場合は、[すべてのページで繰り返す]オプションを使用しないでください。

### ドキュメントの保存

- [名前を付けて保存後に自動的に開く] オプション([ツール]>[オプ ション] > 「保存] タブ) を有効にして、ドキュメントを HTML、PDF、 XLS、RTF または TXT として保存すると、そのファイルは該当のアプリ ケーションで開かれます。
- ドキュメントを HTML として保存した場合、セルの罫線の数と書式が維 持されません。
- ドキュメントに長いファイル名を指定して HTML として保存すると、失 敗する場合があります。
- 英語バージョンの Desktop Intelligence を起動し、ドキュメントに長い ファイル名を指定して HTML 形式で保存すると、フランス語でエラー メッセージが表示される場合があります。
- レポートが PDF ファイルとして保存されている場合、フォント スタイ ルが太字または斜体(あるいはその両方)になっていると、Symbol フォ ントが変換されません。
- "In CurrentPage" をコンテキストとして使用し、式または変数を定義し て、レポートを XLS、HTML、TXT、RTF 形式で保存した場合、計算結 果がこれらの形式では表示されません。
- Desktop Intelligence レポートを Microsoft Excel 形式で保存すると、列幅 と値の表示で問題が発生することがあります。
  - Desktop Intelligence で列サイズが正しく調整がされていない場合、 Excel ファイルで開くと、列幅が狭くなり、値が###と表示されます。
  - Desktop Intelligence で、% 記号を使わずにパーセンテージ値を設定す ると、Excel ファイルで%記号が自動的に追加されますが、列のサイ ズ調整は行われません。
- Microsoft Excel 形式 (XLS) のチャートを含むドキュメントを保存する と、Excelは、ラベルに使用されるスペースに合わせてチャートのサイズ を調整します。つまり、ラベルのサイズが大きくなればなるほど、チャー トのサイズが小さくなることがあります。
  - 回避策: Excel でラベルのサイズとチャートを手動で調整します。
- Microsoft Excel 形式 (XLS) のチャートを含むドキュメントを保存する と、グループ軸のタイトルが「チャート オプション〕ダイアログ ボック スで消去できない場合があります。
  - 回避策:タイトルは Excel で手動で消去します。
- Desktop Intelligence でチャートの新しい方向を定義し、ドキュメントを Microsoft Excel 形式 (XLS) で保存すると、チャートの仰角または回転が Excel で異なる場合があります。

- Microsoft Excel 形式 (XLS) で保存されたドキュメントで、チャートの凡 例の位置が保持されない場合があります。
- Desktop Intelligence では、チャートの表示が最適化されます。その結果、Reporter でより適切に表示されるオプションに従って、軸ラベルの別の方向が適用される場合があります。ドキュメントを Microsoft Excel 形式 (XLS) で保存すると、最適化は行われずにオプションが適用されるため、Excel では方向が異なる場合があります。
- Microsoft Excel には制限があるため、複数の系列グループがある立体 チャートが含まれているドキュメントは、Microsoft Excel 形式 (XLS) で 保存しないようにしてください。XLS 形式で保存すると、チャートは同 じ表示を維持できません。

回避策:1つのY軸だけを使用するようにすべての計数を同じグループで設定するか、または平面チャートを使用して複数の系列グループを定義してからドキュメントをExcelとして保存します。

リッチ テキスト形式ファイル (.RTF) としてドキュメントを保存すると、 一部のハイパーリンクがドキュメントに正しく保存されない場合があります。

### 印刷

- プリンタドライバの中には、グラフィックで使用されている色を識別せず、異なる色を同様の陰影で印刷するものがあります。この影響を抑えるために、Desktop Intelligence はカラー パレットで色の違いを作成し、色または陰影を明確に区別して印刷します。
- ユーロ文字を含む複数のレポートを同時に印刷する場合は、同じプリンタ(および同じプリンタドライバ)を使用する必要があります。プリンタやドライバが異なる場合、最初のレポート以降でユーロ文字が印刷されません。
- [オプション] ダイアログ ボックス([ツール] > [オプション] > [一般] タブ)で[BusinessObjects 4.1 として印刷] を選択すると、ハイパーリン クが有効になりません。

### ブレーク

[両端揃え] オプションは、[ブレーク] ダイアログ ボックスで有効に なっている場合でも、長いセルでは無効です。

### スライス アンド ダイス

「スライス アンド ダイス〕ウィンドウでは、キーボードの F1 キーをク リックしてもヘルプファイルは表示されません。

回避策:「スライス アンド ダイス] ウィンドウに関連付けられたヘルプ ファイルを表示するには、「ヘルプ」ボタンをクリックしてください。

### カテゴリの管理

[カテゴリの追加]および[カテゴリの編集]ダイアログ ボックス([リ ポジトリにエクスポート] > 「カテゴリ] > 「管理] > 「追加] / 「編集]) では、キーボードの F1 キーをクリックしてもヘルプ ファイルは表示さ れません。これらのダイアログ ボックスに関連するヘルプ ファイルはあ りません。

### パブリケーションのスケジュール

デフォルトの出力先にスケジュールされているパブリケーション イン スタンスは、Desktop Intelligence Job Server で受信ボックス出力先が無効 になっていると失敗します。

回避策: Job Server で受信ボックス出力先を有効にします。

- パブリケーションの受信者は、次の2つの条件に該当する場合、コンテ ンツを受信しません。
  - パブリケーションが、Job Server のデフォルト値を使用して受信ボッ クスにスケジュールされている
  - Desktop Intelligence Job Server で、受信ボックス出力先に1人以上の 受信者が設定されている

これらの状況では、すべてのコンテンツが、パブリケーションの受信者 ではなく Job Server の受信者に送られます。

回避策:この問題を回避するには、カスタムの受信ボックス設定を使用 してスケジュールするか、受信ボックスの受信者を設定しないでくださ

# 各言語版の問題

### ドキュメントの保存

言語によっては、「名前を付けて保存後に自動的に開く」オプションの名 前が切り捨てられる場合があります。

### 3-tier モードの Desktop Intelligence

クライアント マシンでは、Desktop Intelligence の言語がインターネット ブラウザおよび InfoView の現在の言語と一致しない場合、3-tier モード の Desktop Intelligence は、Desktop Intelligence の言語で起動します。

開発者向けライブラリ



# 全般

- すべての Business Objects 開発者ドキュメントの入手方法
  - 1. 次の URL から Developer Zone (英語) にアクセスします。 www.businessobjects.com/products/dev zone/default.asp
  - 2. Developer Library のリンクをクリックします。
- Business Objects 開発者ライブラリは、BusinessObjects Enterprise と共に インストールされます。開発者ライブラリには、[スタート] メニュー、 デフォルトのインストール ディレクトリ、または Business Objects 開発 者ゾーン Web サイト(英語)からアクセスすることができます。

「スタート] メニュー:

 $\lceil X \land Y - Y \rceil > \lceil Z \land Z \land Z \rceil > \lceil BusinessObjects \rceil$ ΧI Release [BusinessObjects Enterprise] > [BusinessObjects Enterprise 開発者マニュ アル

デフォルトのインストール ディレクトリ:

C:\Program Files\Business Objects\BusinessObjects Enterprise 11.5\Developer\_Help\jp\default.htm

Web サイト:

http://www.businessobjects.com/products/dev\_zone/default.asp

.NET Server Controls for BusinessObjects Enterprise は XI Release 2 から使 用されなくなりました。

## Designer SDK

Key オブジェクトの Type プロパティは読み取り専用です。

## Desktop Intelligence SDK

- Desktop Intelligence は、C# SDK を使って起動することができません。
- BusinessObjects 6.5 に含まれていたアプリケーション変数の中で、XI Release 2の Desktop Intelligence には含まれていないものがあります。ま た、Desktop Intelligence には新しい変数が1つ含まれています。

| 使用可 / 不可              | 変数名  |
|-----------------------|--|
| XI R2 で使用できる 6.5 の変数  | BOLANGUAGE<br>BOSECURITYDOMAIN<br>BOUSER<br>BUSER_UPPER  |
| XI R2 で使用できない 6.5 の変数 | COMPUTERNAME CommonProgramFiles HOMEDRIVE HOMEPATH ProgramFiles SystemDrive SystemRoot USERDNSDOMAIN USERDOMAIN USERNAME USERPROFILE |
| XI R2 の新しい変数          | DOCNAME  |

# ドキュメント ビューアのサンプル

### 移行サンプル

パブリック フォルダに保存されているドキュメントが個人用カテゴリ に関連付けられていると、お気に入りのリストに表示されます。

# Report Engine SDK のサンプル

JSP/ASPX プロンプトのカスタマイズのサンプルでは、ネストされたプロ ンプトはサポートされません。これは既知の制限です。このサンプルの 目的は、ビューア コンポーネントでのプロンプトのカスタマイズ方法を 示すことです。この SDK を使用してプロンプトを設定する方法について は、Report Engine SDK のチュートリアルを参照してください。

#### Java SDK

Kerberos で AD 認証を使用する場合、非 ASCII ユーザー名で BusinessObjects Enterprise にログオンすることはできません。Kerberos は、ASCII ユーザー名のみサポートします。

#### RAS SDK

ReplaceConnection によって、データベース接続に関連するすべてのエラーが 非表示になります。

SDK で公開されている用紙サイズと給紙方法の一部が、JDK 1.4 でサ ポートされていません。サポートされていない印刷オプションを選択す ると、エラーメッセージが表示されます。

印刷オプションは PrintOutputController.printReport (PrintReportOptions) で処理されます。これは、異なる用紙サイズと給紙方法の指定に使用し ます。

サポートされる用紙サイズは次のとおりです。

useDefault, paperLetter, paperTabloid, paperLedger, paperLegal, paperExecutive, paperA3, paperA4, paperA5, paperB4, paperB5, paperFolio, paperQuarto, paperEnvelope9, paperEnvelope10, paperEnvelope11, paperEnvelope12, paperEnvelope14, paperCsheet, paperDsheet, paperEsheet, paperEnvelopeItaly, paperEnvelopeMonarch, paperEnvelopePersonal

サポートされる給紙方法は次のとおりです。

auto, upper, lower, middle, manual, envelope, largeCapacity 上に記載されていない用紙サイズまたは給紙方法のオプション、または 将来追加されるオプションを使用すると、エラー メッセージが表示され ます。

DatabaseController.ReplaceConnection メソッドの 4 つ目の引数には、 DBOptions クラスを使用できません。代わりに、整数型の値を使用しま す。

現在、DBOptions は 4 つの静的メンバで構成され、次の値が含まれます。

- . useDefault = 0
- $._{doNotVerifyDB} = 1$
- .\_mapFieldByRowsetPosition = 2
- .\_ignoreCurrentTableQualifiers = 4

以下は DatabaseController.ReplaceConnection の使用例です。

databaseController.replaceConnection(oldConnection, newConnection, parameters, DBOptions.\_useDefault);

replaceConnection を実行した後に DatabaseSchema が変更する可能性が ある場合、verifyDatabase ()を呼び出して、クライアントとサーバーの 同期化を行ないます。

### JSP チュートリアル

- 複数レポートを持つドキュメントの XML レポート出力は必ず最初のレ ポートを返します。
- Desktop Intelligence は、無効な前回更新日時を返します。

### 各国言語版

日本語版で Web Intelligence ドキュメントを作成すると、コンパイル エ ラーが返されます。

# 各言語版の問題

### Crystal Reports Developer のサンプル

• Developer サンプルの Windows [スタート] メニュー リンクは、非英語 オペレーティング システムでは機能しません。

Developer サンプルの英語版は、Crystal Reports のインストール後、次の場所からアクセスできます。

• Crystal Reports for .NET のサンプル

C:\footnote{C:\foo

• RDC Developer のサンプル

C:\footnote{C:\footnote{Program Files\footnote{Business Objects\footnote{Crystal Reports}}
11.5\footnote{Samples\footnote{FanC\footnote{RDC\footnote

• Java Reporting Component のサンプル

C:\footnote{C:\footnote{Program Files\footnote{Business Objects\footnote{Crystal Reports}} 11.5\footnote{Samples\footnote{Finest}} 11.5\footnote{C:\footnote{Finest}} 11.5\footnote{C:\footnote{Finest}} 11.5\footnote{C:\footnote{Finest}} 11.5\footnote{C:\footnote{Finest}} 11.5\footnote{C:\footnote{Finest}} 11.5\footnote{Finest} 11

パフォーマンス マネジメント

### インストール

- Business Objects では、パフォーマンス マネジメントをインストールし、 その接続を設定してから、すべてのパフォーマンス マネジメント サー バーを起動することをお勧めします。さらに、以下の事項が推奨されま
  - 1. セントラル管理コンソールにログインし、PMUser が作成されている ことと、すべてのサーバーが有効であり、実行していることを確認 します。
  - 2. InfoView にログインし、パフォーマンス マネジメントのセットアッ プでパフォーマンスマネジメントを設定します。
- テーブルスペースのページサイズが最低 32,768 バイトない限り、IBM DB2 アカウントを使ってパフォーマンス マネジメント リポジトリを正 しく作成できません。
- UNIX プラットフォームへのパフォーマンス マネジメント製品のインス トール時に、セットアップで、AFScheduleProgram を実行するユーザー プロファイルを定義するプロンプトが表示されません。

回避策:インストールの終了後に、AFSchedule プログラムを手動で作成 します。手順については、『BusinessObjects 6.x から XI Release 2 への移 行ガイド』の「Application Foundation オブジェクトの移行について」の 章を参照してください。

SQL サーバーに、パフォーマンス マネジメント製品を伴うデモのパ フォーマンス マネジメント リポジトリとして AFDEMO をインストー ルすると、データベース名は作成されますが、接続は正しく機能しない 場合があります。

#### 同澼策:

- 1. CCM でサーバーを停止します。
- 2. Desginer で、[ツール] > [接続] をクリックします。
- 3. AFDEMO 接続に、SQL サーバーのパスワードを追加します。
- 4. 接続が正しく機能するかテストします。
- 5. CCM ですべてのサーバーを再起動します。 これで、AFDEMO が使用できるようになります。

また、AFDEMO が SQL サーバーにインストールされていない場合でも、 <BO install folder>¥Performance Management 11.5¥Demo¥AFDEMO Data.mdf か ら AFDEMO を手動で添付する場合は、データ ソース (ODBC) で AFDEMO データ ソース名を、および Designer で接続を、手動で作成し なければならない場合があります。

注 AFDEMO データベースはラテン語の照合名を使用するため、ダブル バイトはサポートされません。このため、ラテン語の照合名を、次のよ うな適切な照合名に変更する必要があります。

- 日本語: Japanese CI AS
- 簡体字中国語: Chinese PRC CI AS
- 繁体字中国語: Chinese Taiwan Bopomofo CI AS
- 韓国語: Korean Wansung CI AS

照合名を変更するには、次の手順を実行します。

- 1. CCM でサーバーを停止します。
- 2. SQL Server Enterprise Manager で、一時データベースを作成し、その データベースに一時的な名前を付けます (mvDemo など)。
- 3. AFDEMO のすべてのテーブルを新しいデータベースにインポート します。
- 4. AFDEMO を右クリックし、「データベースのデタッチ」を選択しま す。
  - これによって、ラテン語照合 AFDEMO ファイルは削除されます。
- 5. AFDEMO という名前の新しいデータベースを作成し、適切なダブル バイトの照合名を選択します。
- 6. 一時データベースのすべてのテーブルを、新しく作成した AFDEMO にインポートします。
- 7. CCM ですべてのサーバーを再起動します。

# アップグレードおよび移行に関する問題

注 パフォーマンス マネジメントの「インポート ウィザード」の章のにある フォーマンスマネジメントの移行時の問題点を、必ずお読みください。

- SQL サーバーで Business Objects 6.1.3 から移行すると、パフォーマンス マネジメントの移行先データベースとユーザーは表示されませんが、接 続はそのまま存在し、正しく機能します。
- 集合テーブルの移行が適切に行なわれません。移行後、[セットアップ] > [システム セットアップ] > [リポジトリ] で集合テーブルを更新して ください。

# デプロイメント

- パフォーマンス マネジメント製品を次の Web アプリケーション サー バーのいずれかにデプロイメントする場合は、afhelp.war ファイル (〈BO\_INSTALL\_DIR〉¥Performance Management 11.5 にあります) を context root /bobje に展開する必要があります。
  - WebSphere
  - WebLogic
  - Oracle Application Server
  - SAP NetWeaver
- パフォーマンス マネジメントがインストール済みで、次の Web アプリ ケーション サーバーのいずれかにデプロイメントしている場合は、1つ の WAR ファイルを追加でデプロイメントする必要があります。
  - WebSphere
  - WebLogic
  - Oracle Application Server
  - SAP NetWeaver

パフォーマンス マネジメントのオンライン ヘルプを含むこの WAR という名前で C:\Program ファイルは、afhelp.war Files\BusinessObjects\Performance Management 11.5 にあります。この WAR ファイルは、context root /bobje に展開する必要があります。

- Performance Management 製品のデプロイメントを BusinessObjects Enterprise XI R2 の異なるサーバーから行なう手順は次のとおりです。
  - 1. アプリケーション サーバーと WCA (Web Component Adaptor) を サーバー1にインストールします。
  - 2. BusinessObjects Enterprise XI R2 と CMS を Server 1 にインストール します。
  - 3. サーバー2で[拡張]インストールを実行し、[拡張オプション]ダ イアログ ボックスで [EPM] を選択します。
    - これで、サーバー 1 の Web アプリケーション サーバーで、 desktop.war ファイルが EPM コンポーネントなしでデプロイされ、 サーバー 2 に pm11.boar ファイルがインストールされます。baor ファイルには、サーバー 1 の Web アプリケーション サーバーヘデ プロイする必要のある EMP コンポーネントが含まれており、これを desktop.war ファイルにマージする必要があります。
  - 4. Tomcat を停止します。

- 5. 次の場所にある Web アプリケーション フォルダ、desktoplauch を削 除します。
  - <BO\_INSTALL\_DIR\_SERVER\_1>\text{YTomcat}\text{Ywebapps}\text{Ybusinessobjects}\text{Yenterpris} e115\desktoplaunch
- 6. mergeboar.jar ツールを使用して、desktop.war ファイルの名前を 「backup of desktop.war」と変更し、次の場所から、
  - <BO\_INSTALL\_DIR\_SERVER\_1>¥BusinessObjects Enterprise 11.5¥java¥applications¥

次の場所に移動します。

<BO INSTALL DIR SERVER 1>¥

7. サーバー1で以下のコマンドラインを実行します。

java -jar "<BO INSTALL DIR SERVER 2>\(\frac{1}{2}\)\(\text{Performance Management}\) 11.5\setup\mergeboar.jar" "<BO\_INSTALL\_DIR\_SERVER\_1>\tag{backup\_of\_desktop.war"} "<BO INSTALL DIR SERVER\_2>\Performance Management 11.5\pm11.boar" "\BO\_INSTALL\_DIR\_SERVER\_1\BusinessObjects Enterprise 11.5¥java¥applications¥desktop.war"

- 8. [Tomcat の設定」の [Java] オプションを設定するには、[スタート] >「プログラム] > 「Tomcat] > 「Tomcat の設定] と移動します。
- 9. [Java] タブの [Java Options] エディット ボックスで、次の行を追 加します。
  - -Daf.configdir=<BO\_INSTALLDIR\_SERVER\_2>/Performance Management
- 10. 次の行を含む afhelp.xml ファイルを、〈BO INSTALL DIR SERVER 1〉/ Tomcat/conf/Catalina/localhost に作成します。

<Context docBase="<BO INSTALL\_DIR\_SERVER\_2>\footnote{Performance Management} 11.5\footsaffelp.war" path="/bobj" crossContext="false" debug="0" reloadable="false" trusted="false"/>

- 11. Tomcat を再起動します。
  - Tomcat で afhelp.war ファイルと新しい desktop.war ファイルが自動 的にデプロイされます。
- パフォーマンス マネジメント プロセス専用の第2 ノードにクラスタを デプロイメントしている場合、この第2ノードでは、BO XI R2 セット アップ ウィザードで「拡張」を選択し、「次へ」をクリックする必要が あります。「拡張オプション」パネルで、CMS 名を、第1ノードの名前 に変更し、処理サーバーと EMP をアクティブにします。

# 設定

パフォーマンス マネジメントの設定後に、ターゲット データベースがなく なります。

### 各国言語版

- Sybase では ASCII データを分析要素に設定できません。
- Sybase 上で、日本語文字とフランス語の強調文字を使用する分析要素を 作成できません。

### 日本語版

エラーメッセージが正しく表示されません。

# 全般

同時接続ユーザーの最大数に達すると、最後にログインしたユーザーに ついては、InfoView 内のオプションが制限され、パフォーマンス マネジ メント リポジトリにアクセスできなくなります。また、パフォーマンス マネジメントリポジトリにまだアクセスしていないログイン済みの ユーザーはアクセスを拒否されます。

### スウェーデン語版

分析要素、アナリティック、母集団、集合、およびモデルを作成しよう とすると、切り捨ておよび変換エラーが発生します。

# 接続

#### Sybase ASE ODBC

Sybase Adaptive Server 12 を使用している場合に、クライアントを開いて Performance Management リポジトリを作成すると、エラーが発生します。 Sybase ASE ODBC ドライバを使用してリポジトリを作成する必要があり

次の手順を実行します。

- 1. 正しい言語モデルを使用して、Svbase をインストールします。
- 2. 次のレジストリの場所に、Sybase ASE ODBC3 datasource の Sybase ASE ODBC3 datasource という名前の新しい文字列値を作成します。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Business Objects\Suite 11.5\default\Shared\ConnectionServer\Network Layers\ODBC\SQL List

3. 次の行を、odbc.sbo([BO XI R2 Installation]\BusinessObjects Enterprise 11.5\forall win32 x86\forall dataAccess\forall connectionServer\forall odbc にあります) の 〈databases〉セクションに追加します

<DataBase Active="Yes"Name="Sybase ASE ODBC3 datasource"> <Libraries> <Library>dbd\_wodbc3</Library> <Library>dbd\_odbc3</Library> </Libraries> <Parameter Name="Family">Generic</Parameter> \text{Parameter Name="Version">rdbms\_odbc3.txt</Parameter>
\text{Parameter Name="Version">rdbms\_odbc3.txt</Parameter>
\text{Parameter Name="SQL External File">sybase</Parameter>
\text{Parameter Name="SQL Parameter File">sybase</Parameter>
\text{Parameter Name="Driver Level">31</Parameter>
\text{Parameter Name="Query TimeOut Available">No</Parameter>
\text{Parameter} <Parameter Name="Array Bind Available">False/Parameter> <Parameter Name="Binary Slice Size">32000</Parameter> </DataBase>

- 4. 変更を保存します。
- 5. sybase.rss および sybase.prm を次の場所で見つけ、

R2 Installation]\forall \text{Ywin32\_x86}\forall \text{dataAccess}\forall \text{connectionServer} [BO XI ¥sybase

次の場所にコピーします。

[BO XI R2 Installation] \text{Ywin32 x86} \text{YdataAccess} \text{YconnectionServer } \text{Yodbc} これで、Designer 接続ウィザードの「データベース ミドルウェアの 選択〕パネルに「ODBC ドライバ〕オプションが表示されるように なります。

6. 英語以外のバージョンの BO XI R2 では、テキスト エディタを使用 して、次の場所にある locales.dat ファイルを変更する必要がありま す。

<Svbase install folder>¥locales¥

デフォルトのロケールの文字セットを、プラットフォームに基づい て utf8 (または sjis など別の適切な文字セット) を使用するように 変更します。たとえば、Windows サーバーでは、「NT」セクションの 次の部分を、

locale = default, us\_english, iso\_1

次のように変更します。

locale = default, us english, utf8

- 7. Designer で、次の場所に 2 つの Sybase 接続を作成します。
  - Sybase ASE ODBC3 ドライバの Generic セクション
  - Sybase Adaptive Server ドライバの Sybase セクション
- 8. Sybase ASE ODBC3 接続を使用して、Performance Management リポジ トリを作成します。

注 接続をアクティブにするには、CCM ですべてのサーバーを再起 動する必要があります。

- 9. Sybase Adaptive Server 接続を使用してユニバース接続を作成しま す。
- 10. Performance Management の「システム セットアップ」で、リポジト リへの Sybase Adaptive Server 接続に変更し、セットアップを完了し ます。

注 Sybase ASE ODBC3 接続は、リポジトリを作成するためにのみ使 用されます。

- univarchar データ型はサポートされません。
- パフォーマンス マネジメントでは、「分析要素の作成」の「分析要素名 のオブジェクト〕および「分析要素コードのオブジェクト〕オブジェク トに ASCII 以外のデータは使用できません。

## Dashboard Manager

- メトリックを作成すると、言語によっては、意味のないメトリック名が 自動的に生成される場合があります。システムのデフォルト名を使用せ ずに、独自のメトリック名を入力する必要があります。
- 1.0E27 より大きい値を使用すると、Performance Management がフリーズ します。そのような値を持つアナリティック(たとえば、目標アナリ ティック)を表示しようとすると、エラーが発生します。
- 「メトリック アナリティック] タブで「上位のスライス] ドキュメント を選択すると、そのドキュメントはロードされたようにみえますが、次 のエラーメッセージが表示されます。
  - このドキュメントは、MS SQL Server データベースでは使用できません。
- 「メトリック」ページでは、メトリックのグループの最新表示が実行でき ない場合があります。
  - 回避策:この場合、グループに属しているメトリックをそれぞれ個別に 最新表示します。
- スケジューラの [アナリティックを最新表示] ダイアログ ボックスの 「出力先」セクションには、"??schedule.destination.defaultmanaged???"と いう項目を含むリスト列が表示されます。
- SAP Netweaver を使用している場合、最新表示をスケジュールしようとす るとスクリプト エラーが発生します。
- メトリックを作成すると、言語によっては、意味のないメトリック名が 自動的に生成される場合があります。システムのデフォルト名を使用せ ずに、独自のメトリック名を入力する必要があります。
- メトリック ツリーのメトリック ツリー デフォルト ビュー ウィンドウ の「閉じる」ボタンが反応しません。
- 会社用ダッシュボードをカスタマイズすると、会社用フォルダリストか らそのダッシュボードの名前が消えます。ダッシュボード名を表示する には、InfoView から一度ログアウトして、ログオンしなおす必要があり
- 集計を含むメトリックを最新表示することはできません。

# ダッシュボード

- プロセストラッカーは、会社用アナリティックフォルダでアナリティッ クまたはリンクとして利用できません。
- InfoView の基本設定で、「全般」タブの「シングル ダッシュボードの作 成]または「マルチダッシュボードの作成]オプションを変更するとき、 [OK] をクリックする必要があります。「適用] をクリックしても、オプ ションの変更は適用されません。
- Performance Management の「会社用マルチ ダッシュボード」でスクロー ルバーが動作しません。
- SAP Netweaver では、目標またはアナリティックを作成して[マイ ダッ シュボードに追加〕をクリックすると、ページェラーが発生します。

# アナリティック

- アナリティック プロンプトで [キャンセル] をクリックすると、アナリ ティックのプロパティ ページが再表示されてすべてまたはほとんどの 設定がデフォルト設定に戻されます。
- FLASH 形式で保存したアナリティックに対して「名前をつけて保存」を クリックすると、タイトルは表示されず、使用できる保存形式は SVG だ けです。
- Designer で、[赤] または [青] のオプションを使用すると、オプション の名前が目標アナリティックのY軸に表示されます。
  - たとえば、Designer で「赤」オプションを適用すると、Y 軸には"100" ではなく"100[赤]"と表示されます。
- マップ アナリティックを作成しようとすると、WebSphere アプリケー ション サーバーがクラッシュします。

回避策:次のシステム環境変数を定義します。

名前: IITC COMPILEOPT

値:SKIP{com/corda/pcis/c/c}{a}

- 次のメトリックを個々のウィンドウで開くように設定しても、これらの メトリックは親ウィンドウで開きます。
  - 速度計
  - 対話型メトリックの傾向変動
  - メトリック一覧

他のユーザーに電子メールを送った後にアナリティックを最新表示しよ うとすると、「開こうとしているドキュメントはシステムに存在しませ ん。」というエラー メッセージが表示されますが、ドキュメントはその まま存在します。

回避策:ログアウトして、もう一度ログインし、ドキュメントを確認し ます。

- 予測アナリティックでメトリック予測ドキュメントを開くと、2 つのエ ラーメッセージが表示されますが、両方に対して「OK」をクリックす ると、ドキュメントは通常どおり表示されます。
- openAnalytic URL の作成時にリポジトリの種類として"M"または"P" を指定している場合、あるアナリティックに別のアナリティック内から リンクするとエラーが発生します。
- ユニバース クエリーに基づくアナリティックの場合は、日付オブジェク トでプロンプト値に対してデフォルトの短い日付入力形式を使用する必 要があります。常に、Web Intelligence クエリーで使用されている形式と 同じ日付形式を使用する必要があります。
- "戦略マップ"アナリティックに、〈file://〉のようなリンクを使用する背 景画像を、ローカルまたはリモート ファイル サーバーから表示できませ No.

回避策: Tomcat フォルダへの相対リンク (例: "../images/Demo/ globe.jpg")か、またはインターネットへの絶対リンク(例: < http:// www.image.com/image1.jpg>) を使用します。

- このリリースでは、"メーター"アナリティックおよび"メトリックの傾 向変動"アナリティックを SVG/FLASH モードで電子メールの添付ファ イルとして送信することはできません。
- FLASH 形式のアナリティックを開いて [名前をつけて保存] をクリック すると、問題が発生します。アナリティック タイトルが表示されず、形 式が SVG になります。
- 1 つの目標またはメトリックに連結する複数のメトリック ツリーがある 場合、メトリックツリーのみが一覧されます。

### 対話型メトリックの傾向変動

- Application Foundation 6.5.1 リポジトリから移行した対話型メトリック の傾向変動アナリティックにデータが含まれていない場合、「表示するメ トリックがありません。」というエラー メッセージが表示されるべきで すが、実際には「対話型メトリックの傾向変動」としか表示されません。
- VMWare 内で起動したブラウザからは、リンクのスライス/スライス解除 は実行できません。

- "対話型のメトリックの傾向変更"アナリティックを Flash で編集して [OK] をクリックすると、表示モードが SVG に変わります。
- 新しいアナリティックを保存せずにキャンセルしても、そのアナリ ティックが作成されます。

#### ドキュメンテーション

Dashboard Manager オンライン ヘルプで、「変動」または「変動率」のい ずれかを使用して遅延を検出するメトリックまたは目標を作成できると 説明されていますが、これは間違いです。

遅延は、アナリティックを作成してから検出できます。

- 1. アナリティックをクリックして、開始点を選択します。
- 2. マウス ポインタを前の期間へドラッグします。

[計数] セクションの「変動] および「変動率」の計算が変更され、 開始点と終了点の間の遅延が表示されます。時間スライダも変化し て、開始点と終了点の間を移動します。

- Dashboard Manager オンライン ヘルプでは、「傾向変動分析] アナリ ティックの項で以下のチャート オプションの説明がありません。
  - 累積合計:期間の集合の積算合計

汎用式:メトリック値 現在の期間 + メトリック値 前の期間

累積合計 - 月:各月の積算合計

汎用式:メトリック値 現在の期間 + メトリック値 前の期間

累積合計・四半期:各四半期の積算合計

汎用式:メトリック値 現在の期間 + メトリック値 前の期間

累積合計・年:各年の積算合計

汎用式:メトリック値 現在の期間 + メトリック値 前の期間

### マップ アナリティック

"マップ"アナリティックで、グリーンランド(GL)オプションを選択 すると、画像を作成できなかったことを知らせるエラーが表示されます。

#### 日本語版

Graph プロパティの表示テキスト フィールドで、円マークが"¥"として 表示されます。

#### パレート チャート

Application Foundation 6.5.1 で作成され、BusinessObjects Enterprise XI Release 2 へ移行されたパレート チャートが、スナップショット形式で表 示されません。

## Performance Manager

- 目標またはメトリックを公開するか、または、手動あるいはストラテジ ビルダを使用して有効にしようとするとエラーが発生します。 回避策:
  - 1. CMC を開きます。
  - 2. AAAlertNotificationServer を再起動します。
- ユニバース クエリーを基にした両極目標で、最初の上限許容限度に指定 された上限許容値が1つしかないものを作成すると、この許容限度は表 示されません。

回避策: "上限許容度"と"外部上限許容度"の両方に、同じ許容限度を 選択します。その結果、"上限許容度"のみしかない場合も同じ許容限度 になります。

- SAP Netweaver を使用している場合、ストラテジ ビルダで新しいストラ テジまたは役割を作成しようとしたり、目標またはメトリックを公開し ようとするとスクリプトエラーが発生します。
- 6.5 から BO XI R2 へ移行すると、パブリケーションが「個人用目標」タ ブに表示されない可能性があります。

#### 回避策:

- 1. BusinessObjects リポジトリを BusinessObjects 6.5 から BusinessObjects XI R2 に移行します。
- 2. サーバーを開始します。
- 3. ストラテジビルダで、[組織] タブをクリックします。
- 4. 「Everyone」の役割を選択して、「編集」をクリックします。
- 5. 「次へ」をクリックして、「役割の更新」ページに移動します。 グループは、移行した 6.5 リポジトリのルート フォルダ名に「動的 (Business Objects クエリー)] と定義されています。
- 6. [グループ] リストで、[Everyone] を選択します。
- 7. 「次へ」をクリックして、「役割の更新」をクリックします。
- 8. 「メンバーシップの最新表示」をクリックします。

- 9. その他の役割がすべて Everyone グループの属していることを確認 します。
- Strategy Builder で Everyone ロールを更新しようとすると、エラーが発生 します。

### 個人用目標ページ

- 個人用目標ページのアクション ハイパーリンクで、動作しないものが一 部あります。
- 6.5 から BusinessObjects XI または XI R2 に移行した後に、パブリケー ションが「個人用目標」タブに表示されず、目標またはメトリックを特 定のユーザーに公開できない場合があります。

#### 同澼策:

- 1. Business Objects リポジトリを移行します。
- 2. サーバーを開始します。
- 3. ストラテジビルダで、「組織」タブをクリックします。
- 4. 「Everyone」の役割を選択して、「編集」をクリックします。
- 5. [次へ]をクリックして、[役割の更新]ページに移動します。 グループは、移行した 6.5 リポジトリのルート フォルダ名に [動的 (Business Objects クエリー)] と定義されています。
- 6. [グループ] リストで、[Everyone] を選択します。
- 7. [次へ] をクリックして、[役割の更新] をクリックします。
- 8. 「メンバーシップの最新表示」をクリックします。
- 9. その他の役割がすべて Everyone グループの属していることを確認 します。

## **Predictive Analysis**

- ビンニング変数を使った範囲制限は使用できません。
- 集合メトリックを基にした新しいモデル ベースのメトリックを最新表 示しようとすると、エラーが発生します。

回避策: ci param テーブルの packed result 値を手動で設定することが必 要です。ci\_param テーブルに以下を挿入します。

(param\_id, param\_type, item\_name, item\_value) values (0, 1, 'packed\_result size', [packed result value])

ここで [packed\_result value] は、集合メトリックのサイズです。packed\_result サイズを設定しない場合、内部サーバーの最大値は 30000 です。

ci\_param テーブル内の packed\_result サイズのデフォルト値が、使用しているデータベース設定に準拠していない場合、モデル ベース メトリックの作成時に次のエラー メッセージが表示されます。

(Load Model error error during the uudecode - size problem )- 147 この問題を解決する

- ci\_param テーブルに次の値が含まれることを確認します。
   (param\_id、param\_type、item\_name、item\_value)
   ここで、item\_name は 'packed\_result size'で、item\_value は、ci\_context\_output.packed\_result の最大サイズに相当する整数です。
   例: ci\_param(param\_id、param\_type、item\_name、item\_value)に値(0、1、'packed\_result size'、20000)を挿入します。
- 2. Performance Management サーバーを再起動します。
- 3. モデルを最新表示します。

## **Process Analysis**

ルール エンジンを移行した後、最新表示を行うと、長い新しいルールの 式が消えてしまいます。

# 2-tier 製品: Set Architect および Set Analyzer

BusinessObjects XI Release 2 は Set Architect をサポートしますが、2-tier モードの Set Analyzer はサポートしません。

詳細については、次のサイトで、サポートされるプラットフォームに関する ドキュメントを参照してください。

http://support.businessobjects.com/supported\_platforms\_xi\_release2/

## ドキュメンテーション

パフォーマンス マネジメント製品のすべてのドキュメントは、各製品で提供されるコンテキスト ヘルプとして利用できます。ヘルプにアクセスするには、ポータルの右上隅にある「ヘルプ」をクリックします。

インポート ウィザード



# 全般

- Business Objects は、追加のバグを修正するために、XI R2 リリース後に 配布される Microsoft Windows パッチをインストールすることを強くお 勧めします。
- BusinessObjects ドキュメントを大量にインポートすると、インポート ウィザードがクラッシュすることがあります。Business Objects では、シ ングル パス インポートではなく、インクリメンタル インポートの使用 を推奨しています。特に、受信ボックス全体をインポートすると、イン ポートするドキュメントの数が飛躍的に増加することがあります。それ は、BCA スケジューラによって送信されるドキュメントのコピーが、各 送信先ユーザーに対して作成されるためです。
- BusinessObjects Enterprise をインストールする際、インポート ウィザー ドを正常に実行するために、サーバー インストールを実行することをお 勧めします。
- インポート ウィザードは、オブジェクトのインポートを開始する前に File Repository Server および Input Server が実行中かどうかはテストしま せん。

回避策:インポート ウィザードを起動する前に、File Repository Server および Input Server が実行中であることを確認します。

インポート ウィザードは、オブジェクトのインポートを開始する前にラ イセンスが有効かどうかはテストしません。

回避策:インポート ウィザードを起動する前に、ライセンスが有効であ ることを確認します。

# ユーザー インターフェイス

- 「ユニバースとドキュメント〕ダイアログボックスで「すべてクリア〕ボ タンをクリックすると、淡色表示されているチェックボックスもクリア されます。
- WID ドキュメントと WQY ドキュメントのアイコンが同じです。
- BusinessObjects リポジトリに存在しないユニバース ドメインとドキュ メント ドメインが、インポート ウィザードで表示されることがありま す。
- インポートに要する時間が長すぎると、インポート ウィザードが "応答 なし"メッセージを表示することがあります。

• 受信ボックスのドキュメントをインポートすると、非選択のドキュメントタイプが無視され、受信ボックス全体がインポートされます。この問題は、インストールが推奨されている Microsoft Windows のパッチで解決します。

# ユニバース

- 大きなユニバースの説明は、完全に移行されません。
- 移行された UNV ファイルに、GUID という不正なクラスタが含まれます。
- インポート ウィザードの[インポートするオブジェクトの選択]画面で、受信ボックス ドキュメントと個人用ドキュメントのみを選択し、[ドキュメントで使用されるユニバースのみインポートする] オプションを選択すると、ユニバースが選択されず、インポートもされません。

回避策:インポートするすべてユニバースを明示的に選択するか、すべてのユニバースをインポートします。

# ドキュメント

### **Desktop Intelligence**

- 移行された長い名前の REP ファイルが、名前変更されることがあります。
- REP ドキュメントを移行するか、または Desktop Intelligence からドキュメントを公開すると、InfoView で最新表示しても、ステータス バーの日付と時間が更新されません。
- 会社用ドキュメントから REP ファイルのみインポートすると選択し、カ テゴリに属するすべてのオブジェクトをインポートするオプションを選 択すると、WQY ファイルと WID ファイルもインポートされます。

### WebIntelligence 2.x から XI Release 2 へ

- HTML リンクがテキストとして変換されます。この問題は、インストールが推奨されている Windows のパッチで解決します。
- 分析範囲が移行されません。[結果] 枠にオブジェクトがいくつか存在するが、これらのオブジェクトは本来、[分析範囲] 枠にのみ表示されるべきものです。

# 14 インポート ウィザード その他

- 特にチャートでは、デフォルトフォントが異なって表示されます。
- 列幅がデフォルトに設定されていない WebIntelligence 2.x (WQY) ドキュ メントを変換すると、Web Intelligence XI R2 (WID) ドキュメントでは列 幅に問題がある可能性があります。

回避策:影響を受ける列と列へッダの「プロパティ」タブで「幅の自動 調整〕をオンにします。

- WQYの日付が正しく移行されません。
- 日本語文字を含む Web Intelligence 2.x ドキュメントをインポートおよび 変換すると、チャートの凡例とラベルが変更されることがあります。
- WQY ドキュメントのあらゆる長いプロパティは、正しくインポートされ ないことがあります。

## その他

- Web Intelligence レポートを BusinessObjects Enterprise XI から XI Release 2 に移行すると、プレキャッシュされたプロパティは新しい形式に更新 されません。
- 孤立したドキュメントを移行しても、警告が表示されません。
- 同じ名前の WID ファイルと WQY ファイルを名前の変更オプションを使 用せずにインポートすると、いずれか一方の移行に失敗します。

回避策:同じ名前の WID ファイルと WQY ファイルをインポートすると きは、名前の変更オプションを使用してください。その結果、CMS に 2 つの WID ファイルが移行され、そのうちの 1 つの名前が変更されます。 別の方法として、インポートする前にいずれかの名前を変更しておくこ ともできます。

# パフォーマンス マネジメント

パフォーマンス マネジメントに関する他のリリース ノートについては、パフォーマンス マネジメントを参照してください。

- Application Foundation 6.x から BO XI R2 への移行中に [カテゴリのインポート]、[ドキュメントのインポート] および [ユニバースのインポート] オプションを無効にしても、[カテゴリの選択]、[ドキュメントの選択]、および [ユニバースの選択] 画面が表示され、Application Foundation 6.x に関連するすべてのドキュメント、カテゴリ、ユニバース、接続がインポートされます。
- 件名を基準としたユニバースや関連付けられたメトリックはインポート されません。
- SQL で、リポジトリが Application Foundation リポジトリをポイントする よう接続を選択すると、この接続からではないデータが [接続] ダイア ログ ボックスに表示されます。
- Application Foundation リポジトリをポイントしたとき、[接続] ボックスの[セットアップ] タブに非常に多くのデータが表示されます。ほかの情報が間違って接続として表示されるなかで、接続名は正しく表示されます。
- 既存のメトリックにフィルタを追加すると、メトリックのエントリが重複します。
- 目標名、およびメトリック ツリー名とその説明を移行しても、アクセント記号は正しく移行されません。
- 移行したダッシュボードを表示した場合、AAAnalytics プロセスが、200K を超えるメモリと 90% を超える CPU リソースを使用します。場合によっては Tomcat も大量の CPU リソースを使用します。
- 管理者ではないユーザー用に移行を行った後は、ダッシュボードのメトリック一覧が正しく表示されません。
- 目標が存在しない場合も、メトリック一覧のナビゲーション メニューで [目標アナリティックの表示] が使用できます。メトリック一覧の操作 時、目標の有無にかかわらず、[ナビゲーション] メニューですべての項 目について [目標アナリティックの表示] オプションが常に表示されま す。
- 移行後、ユーザーは非常に長いルールを作成できますが、最新表示する と式の定義が表示されなくなります。
- 一部のユニバースのメトリックを [手動入力] に設定すると、最新表示できなくなります。
- Application Foundation 6.1 からの移行時に表示される警告メッセージに、 必要な情報の一部が欠落しています。

### 全般

- Performance Management XI R2 への移行は、Application Foundation 6.1.b、 6.1.3、6.5.1、および Performance Management XI の次のバージョンからの みサポートしています。
- インポート ウィザードには、バージョン 6.1.b より前のバージョンをブ ロックするはずのリポジトリバージョンのチェック機能がありますが、 現時点ではバージョン 6.1 および 6.1.a からの移行を許可しています。本 来これらのバージョンの Application Foundation からの移行はサポートさ れません。
- Business Objects では、インポート ウィザードを使用してすべての Application Foundation オブジェクトを一度に移行することをお勧めしま す。増分移行を行うとリンクが壊れる可能性があります。
- Application Foundation リポジトリをバージョン 6.x から移行する場合は、 インポート ウィザードを使用してください。パフォーマンス マネジメン トの「セットアップ」でリポジトリを更新しても、バージョン 6.x リポ ジトリは XI R2 に更新されません。Business Objects では、インポート ウィザードを起動する前に Application Foundation リポジトリをバック アップすることをお勧めします。そうしないと、6.x 環境でリポジトリが 読み取り不能となります。移行後にソース システムを維持するには、XI R2 のインストール後に次の手順を実行します。
  - 1. パフォーマンス マネジメント リポジトリにアクセスするアカウン トを使用して AF 6.x リポジトリをコピーします。
  - 2. インポート ウィザードを使用して Business Objects Application Foundation オブジェクトを CMS へ移行し、Application Foundation 6.x リポジトリをアップグレードします。
  - 3. 「セットアップ」で、移行したリポジトリを使用するようにパフォー マンスマネジメントを設定します。

詳細は、『BusinessObjects 6.x から XI Release 2 への移行ガイド』を参照 してください。

- インポート ウィザードでスケジュールを移行する前に、スケジュールを 実行するローカル サーバー管理者アカウントを定義する必要がありま す。
  - 注 BusinessObjects 6.x から XI R2 へ移行する場合、一部のファイルは でサポートされていないため、移行されません。詳細は、 『BusinessObjects 6.x から XI Release 2 への移行ガイド』を参照してくだ さい。

### 判明している問題点

- Oracle 上では、インポート ウィザードは Application Foundation 6.x スケ ジュールを CMS ヘインポートしません。
- インポート ウィザードで Application Foundation 6.x スケジュールを SQL サーバー CMS ヘインポートする場合は、事前に、宛先 CMS に手動で AFScheduleProgram オブジェクトを作成します。インポート ウィザード を実行する前にこの手順を実行しないと、インポート ウィザードは AFSchedule を正しく SQL サーバーヘインポートしません。
- 個人用ダッシュボード内の個人用ドキュメントへのリンクは移行されま せん。
- Performance Management リポジトリをバージョン XI からアップグレー ドする場合、「システム セットアップ」のリポジトリ アップグレードを 使用します。インポート ウィザードでバージョン XI のリポジトリを バージョン XI R2 ヘアップグレードすることはできません。
- Application Foundation バージョン 6.1b、6.1.3、または 6.5.1 から BusinessObjects Enterprise IX Release 2 へ移行するとき、ダッシュボード のアクセス制限が正しく移行されない可能性があります。認証されてい ないユーザーが、制限されたダッシュボードおよびダッシュボード アイ テムにアクセスできるようになる可能性があります。CMS ヘインポート したその他の Performance Management の権限がインポート先環境で正し く適用されない可能性があり、一部のユーザーが特定のアクセス権限を 失うことがあります。

Intelligent Question



# Web Intelligence へのエクスポート

Web Intelligence に解答をエクスポートするときは、編集する前に Web Intelligence で保存する必要があります。最初に編集し、保存しようとす ると、次のエラーが表示されます。

エラーが発生しました。ID 0 のオブジェクトが CMS に存在しないか、 またはそれへのアクセス権がありません。

回避策:このエラーを回避するには、解答をエクスポートした後すぐに Web Intelligence で保存してください。

Web Intelligence にクエスチョンをエクスポートした後、「編集」ボタン をクリックする前に、生成されたレポートを保存する必要があります。 レポートを保存する前に「編集」をクリックすると、次のエラーが発生 します。

エラーが発生しました。ID 0 のオブジェクトが CMS に存在しないか、 またはそれへのアクセス権がありません。

# アンインストール後の InfoView の実行

Intelligent Question をアンインストールした後、すぐにその他の Business Objects アプリケーションをインストールしないでください。Intelligent Question と一緒に InfoView プラグイン機能がインストールされていて、 Tomcat 機能が BusinessObjects Enterprise と一緒にインストールされている 場合、Intelligent Question インストーラは Business Objects の Tomcat を統合 した desktop.war の展開を待ちません。InfoView が使用できないことがありま す。Tomcat サービスが再展開を完了するまで、その他の BusinessObjects ア プリケーションはインストールしないでください。

# パフォーマンス マネジメントからの起動

パフォーマンス マネジメント アプリケーションから Intelligent Question を 起動するには、最上位レベルのブラウザ フレーム内で Intelligent Question を 開きます。それ以外のすべての InfoView フレームは非表示になり、現ユー ザーがその他の InfoView アプリケーションにアクセスできなくなります。

# デフォルトのインストール場所

QuestionEngine.exe によって WINDOWS\System32 ディレクトリに 1 つの フォルダと多数のファイルが作成されます。QuestionEngine は Windows サー ビスとして実行し、デフォルトで Windows\System32 ディレクトリにインス トールします。

# 断続的な NullPointerException

セントラル管理コンソールで Intelligent Question セキュリティ アプリケー ションにログイン中に次のワークフローを実行すると、断続的な NullPointerException が生成される可能性があります。

- Question Designer にユーザーを追加する
- InfoView にログインし、Intelligent Question アプリケーションを選択す る
- Question Designer に他のユーザーを追加しようとする

この問題が発生した場合は、InfoView とセントラル管理コンソールの両方か らログアウトした後、セントラル管理コンソールにログインしなおすことを お勧めします。

**OLAP** Intelligence



#### インストール

システム要件およびサポートされるプラットフォームの全リストは、製 品ディストリビューションに付属の platforms.txt を参照してください。イ ンストール手順の詳細については、インストール (xir2\_oi\_olapinstall\_xx.pdf) を参照してください。

# Essbase サポート

Essbase/DB2 OLAP ドライバは、複数のエイリアス テーブル、Dvnamic TIME Series 機能、属性次元、ユーザー定義属性などのネイティブ Essbase 機能の 拡張サポートを提供します。

# アプリケーションの動作

ディメンションの上位の階層レベルの計算メンバーが、下位レベルのメ ンバーとともに表示されます。OLE DB for OLAP (MSOLAP) データ ソー スを使用しており、Worksheet に3つ以上の階層レベルを持つディメン ションがあり、そのレベルのすべてまたは一部に基づく計算メンバーが あると、問題が発生します。

たとえば、ディメンションに4つのレベルが存在し、レベル4が最下位 の子レベルであるとき、計算されたメンバーが 4 つのレベルすべてに存 在する場合は、レベル1のメンバーを右クリックして「メンバー セレク タ]を起動し、「選択に子を追加」>「カスタム」を使ってレベル4のメ ンバーだけを表示しようとすると、レベル 4 のメンバーとともにレベル 2の計算されたメンバーが表示されます。

ワークシートまたは計算されたメンバーを削除するには、メンバーを手 動で選択解除します。

- 列見出しセルの高さと幅のサイズは変更可能で、見出しセルのテキスト はデフォルトで折り返して表示されるようになっています。レポートの テキスト折り返しの設定は、OLAP Intelligence デザイナで変更できます。
- OLAP Intelligence レポートで、アクション URL が常にブラウザの新しい ウィンドウで開かれます。そのため、アクションの openDocument URL で sWindow URL パラメータを使用すると、エラーが発生する場合があり ます。

回避策: openDocument URL で sWindow パラメータを使用しないように します。

sWindow パラメータで、ターゲットのレポートをブラウザの現在のウィ ンドウで開くか、新しいウィンドウで開くかを決定します。

- OLAP Intelligence レポートを DHTML インタラクティブ ビューアで表示 すると、Internet Explorer の設定により、次のような異常な動作が発生す ることがあります。
  - 「OK] や「ヘルプ」などの一部のボタンがステータス バーにより隠 される。
  - Excel 形式へのエクスポートが動作しない。
  - ドリル スルー ビューアで Excel へのコピー機能が動作しない。
  - メンバー セレクタで「レベル x のメンバーをすべて選択〕オプショ ンを使用するとエラーが発生する。

DHTML インタラクティブ ビューアを Internet Explorer で正しく動作さ せるには、以下のガイドラインを参考にしてください。

- InfoView アプリケーションをホストする Web サイトを「インター ネットオプション〕で信頼済みサイトとして追加する(Windows XP Service Pack 2, Windows Server 2003 Service Pack 1)
- Internet Explorer セキュリティ強化の構成を無効にする (Windows Server 2003 の全バージョン)。
- ポップアップ ブロッカー (Windows XP Service Pack 2) を無効にす るか、ポップアップウィンドウの許可サイトに追加する。
- DHTML インタラクティブ ビューアでメンバー セレクタを閉じると ページ全体が最新表示されます。

この問題は、Firefox や Mozilla などの一部のブラウザで、ページ全体の 最新表示しかサポートされず、特定のコンポーネントだけの最新表示は サポートされないことが原因です。

#### BusinessObjects XI Integration Kit for SAP に関する注意事項

- OLAP レポートが最初に作成されるときは、NULL 値の非表示が有効に なっています。
  - これは、SAP BW データ ソースから OLAP レポートを作成する際、SAP のデフォルトビューとの一貫性を維持するための既定の動作です。 NULL 値の非表示は、ツールバー ボタンで無効にできます。
- 「パラメータの設定」ダイアログ ボックスのメンバー セレクタで、多く のメンバーのロードに時間がかかる場合があります。そのため、「パラ メータの設定〕ダイアログ ボックスが表示されるのに時間がかかり、さ らにメンバー セレクタの表示に時間がかかることがあります。

# OLAP Intelligence 各言語版の問題

.NET InfoView の .car ファイルの URL 構文が、OLAP Intelligence XI R2 で 変更されています。

以前の URL 構文

http://< コンピュータ名 >/styles/csp/analysisviewer sap.csp?id=< レポート ID>&sap\_client=<SAP クライアント >&sap\_sysid=< システム ID>

新しい URL 構文

http://< コンピュータ名 >/businessobjects/enterprise115/SAP/InfoView/ analysisviewer\_sap.csp?id=< レポート ID>&sap\_client=<SAP クライアント >&sap\_sysid=<システム ID>

# 各言語版の問題

Firefox インターネット ブラウザを使用して Web Intelligence の HTML ク エリーパネルにアクセスする際、OLAPレポートの名前に使用されてい る言語フォントが、Firefox のバージョンの言語とオペレーティング シス テムの言語と一致していない場合、レポートが正しくアップロードされ ません。

#### 同澼策

- レポート、オペレーティング システム、Firefox のバージョンが同じ 言語であることを確認します。
- Microsoft Internet Explorer を使用して Web Intelligence にアクセスし ます。Internet Explorer では、この問題は発生しません。

# データ ソースへの接続

- Holos 接続はサポートされなくなりました。Holos レポートを開くと、次 のメッセージが表示されます。
  - Holos データ ソースは BusinessObjects XI Release 2 でサポートされない ため、レポートは開きません。
- 計算されたセルは空のセルとして表示される場合があります。OLE DB for OLAP (MSOLAP) データ ソースを使用すると、他の計算に基づくカ スタムの計算で問題が発生する場合があります。

たとえば、計算Aを作成してから、最初の計算に基づいてカスタム計算 Bを作成します。計算 A を変更すると、計算 B のセルは空のセルとして 表示され、計算Bを再作成する必要があります。

# 一般的な問題

合があります。

- Excel 用の OLAP Intelligence アドインを無効にしても、OLAP Intelligence ナビゲーション ツールバーが削除されない場合があります。Microsoft Excel の [ツール] メニューの [アドイン] オプションから OLAP Intelligence アドインを無効にすると、OLAP Intelligence ツールバーは削 除されますが、OLAP Intelligence ナビゲーション ツールバーはそのまま 残ります。Excel の [ツール] メニューにある [ユーザー設定] オプショ ンを使用して、ツールバーを削除します。
- MSOLAP データ ソースに接続しているとき、基のデータ キューブが最 新表示されると、OLAP Intelligence の動作が正常でなくなることがあり ます。レポートは不安定になり、使用できなくなる場合もあります。 OLAP キューブを最新表示する必要がある場合は、最新表示時に他の ユーザーがキューブを使用していないことを確認してください。当該 キューブを使用するレポートを他のユーザーが処理しているときに キューブを最新表示すると、レポートのデータは正しく更新されない場
- OLAP Intelligence から Excel にデータをエクスポートすることはできま せん。OLAP Intelligence のインストールが完了したマシンでまだ Excel を 開いていない場合、OLAP レポートを Excel にエクスポートすると失敗 します。Excel のインスタンスがタスクバーに表示されますが、そのイン スタンスはアクティブではありません。
  - Excel を正しくエクスポートするには、Excel を手動で開いて閉じます。 これでエクスポートは正しく実行されます。
- デフォルトでは、OLAP Intelligence は、WebSphere や WebLogic でサポー トされない XSLTC を使用しています。WebSphere または WebLogic を使 用する場合は、次の行を JVM 引数 (WebSphere の場合) または java.options (WebLogic の場合) に追加してください。
  - -Dbusinessobjects.olap.xslt.TransformerFactory= org.apache.xalan.processor.TransformerFactoryImpl
- デフォルトで、プロセスは ASP.NET 内で処理されます。ただし、スケー ラビリティに制限があるため、ASP.NET 外でプロセスを実行することを お勧めします。ASP.NET 外でのプロセスの実行に関する情報は、Business Objects オンライン サポート サイトにある技術情報ドキュメント Improving the performance and scalability of BusinessObjects OLAP Intelligence XI』(英語)を参照してください。
- CMC で、[アクセス権] タブを使用して OLAP Intelligence オブジェクト のユーザー権限の追加、削除、確認などの作業を行うと、タブの上にあ るナビゲーションペインが表示されなくなります。

# 16 OLAP Intelligence ドキュメンテーション

回避策: CMC 画面の上部にあるリストから項目を選択します。ナビゲー ションペインが再び生成されます。

Excel ワークシートで、値に一貫した書式設定が適用されません。たとえ ば、"総支出"列の値が通貨として書式設定されていても、"正味売上" 列の値が通貨として書式設定されません。OLAP Intelligence デザイナと サーバーでは、すべての値が通貨として表示されています。

この問題は、データベースへのデータの入力方法に不統一が検出される と発生します。たとえば、一部の数値が通貨として入力され、そのほか の値が実数として入力されるているような場合です。

計算エキスパートまたはデータ分析エキスパートで計算メンバーを変更 するとき、変更を終了させずに別のエキスパートに切り替えると、 Internet Explorer がクラッシュします。

計算エキスパートで作成した計算をデータ分析エキスパートで編集する とき、計算エキスパートの使用を避けてください。同様に、データ分析 エキスパートで作成した計算を計算エキスパートで編集するとき、デー タ分析エキスパートの使用を避けてください。

詳細は、次のサポート資料を参照してください。

http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;en-us;831845 (英語)

DHTML インタラクティブ ビューアのドリル スルー ビューアで、「ク リップボードへコピー」オプションを使用できません。

### ドキュメンテーション

「Java InfoView での DHTML インタラクティブ ビューアの有効化」にあ る「前提条件」の節では、以下が正しい説明です。

OLAP Intelligence コンポーネントは、デフォルトで C:\Program Files\Business Objects\OLAP Intelligence 11.5\U03a4 にインストールされます。別 の場所にインストールする場合は、インストール パスを汎用 Java 仮想マ シン(IVM)引数のデフォルトに代入します。この章の手順では、デフォ ルトの場所にインストールしていることを前提に説明します。表示され た短縮ディレクトリ命名規則(つまり、C:\Program Files\)ではなく C:\Progra~1\P) を使って、引数行にスペースが入力されないようにする必 要があります。スペースは追加の引数として誤って解釈され、エラーが 発生する可能性があります。お使いのオペレーティング システムで短縮 ディレクトリ名がサポートされない場合、完全パスを引用符で囲んで使 用してください。

Portal Integration Kit



### SharePoint Web パーツ

#### インストール

- システム要件およびサポートされるプラットフォームの全リストは、製 品メディアに付属の platforms.txt を参照してください。インストール手順 の詳細については、インストールガイドを参照してください。
- BusinessObjects Enterprise コンポーネントをインストールする前にすべ てのウィルス対策ソフトウェアを無効にしてください。インストール後 に、それらのソフトウェアを有効にしてください。

#### セキュリティとログインの問題

- 同時接続ライセンスを使用する場合、SharePoint Web パーツでドキュメ ントを表示するたびにライセンスが 1 つ使用されます。同時接続ライセ ンスの乱用を防ぐためには、指定ユーザー ライセンスを使用します。
- web.config ファイルの BusinessObjects Central Management Server プロパ ティで指定されている CMS 名は、完全修飾名ですべて大文字である必要 があります。

#### 表示に関する問題

- Microsoft SharePoint ポータルで、Document View Web パーツでレポート を表示できるよう、レイアウト オプションの調整が必要な場合がありま
  - [共有 Web パーツの変更] ツール ウィンドウで、[外観] セクション を展開し、表示領域の高さと幅を設定します。
    - 単位として「ピクセル」を使用します。
- Document View Web パーツでポータル ページにアクセスすると、Business Objects InfoView のログオン画面にリダイレクトされる場合があります。 これは、元のログオン セッションの有効期限が切れていることが原因で 発生します。

回避策: InfoView にログオンして、ポータル ページにアクセスします。

#### Firefox ブラウザの問題

Firefox ブラウザで SharePoint Web パーツを表示している場合、次の問題が発 生することがあります。

- 「接続」オプションがドロップダウン メニュー内にあるため、Web パー ツ間には接続を作成できません。Firefox はドロップダウンの編集をサ ポートしていません。
- 必要なプラグインがインストールされていない場合、Word、Excel、 PowerPoint、RTF ファイルなどのオブジェクトが Web パーツに表示され ないことがあります。
- 編集モードで、レイアウトの問題のため表示されないオプションがあり ます。

# JSR168 ポートレット

#### インストール

- システム要件およびサポートされるプラットフォームの全リストは、製 品メディアに付属の platforms.txt を参照してください。インストール手順 の詳細については、インストールガイドを参照してください。
- BusinessObjects Enterprise コンポーネントをインストールする前にすべ てのウィルス対策ソフトウェアを無効にしてください。インストール後 に、それらのソフトウェアを有効にしてください。
- BusinessObjects Enterprise XI Release 2 の Portal Integration Kit でサポー トされているポータル プラットフォームのバージョンは次のとおりで す。
  - IBM WebSphere Portal 5.1
  - BEA WebLogic Portal 8.1 SP4
  - Oracle 10g Portal Release 2

#### 表示に関する問題

- 一部のアジア言語で、ヘルプ ファイルが正しく表示されないことがあり ます。回避策は次のとおりです。
  - 「表示」メニューで「エンコード」を選択し、「Unicode (UTF-8)]を クリックします。
- デフォルトで Document List ポートレットと Document View ポートレッ トは、デフォルトの通信 ID により理論的に接続されています。ただし、 これらのポートレットは、デフォルトの通信のタイプが指定されていな いため、実際には接続されていません。

2 つのポートレットを接続して既知のすべてのコンテンツ タイプが表示 されるようにするには、次の値の一覧を「通信のタイプ]フィールドに コピーします。

Analysis, Analytic, Crystal Report, deski, Full Client, Excel, MyInfoview, PDF, Powe rPoint, RTF, Txt, Webi, Word

#### ドキュメンテーション

- 最新版のマニュアルについては、http://support.businessobjects.com/ documentation / で「Product Documentation on the Web」を参照してくださ
- 『Portal Server インストール ガイド』の「システム要件」に、「Microsoft Windows Server 2000 または 2003 が必要」という旨の記述がありますが、 UNIX システムに Portal Integration Kit をインストールする場合は Microsoft Windows Server は必要ありません。
- このリリースでは、スウェーデン語またはポルトガル語のマニュアルは 提供されていません。

レポート変換ツール

# 変換

- Web Intelligence では、クロスタブに水平線および垂直線が示されません。 これは、割合などの関数を含むクロスタブで発生します。
- 折り返しテキストおよび長いテキストのみを含むセルは、高さと幅の両 方が縮小されます。
- 変換後、セル内の日付形式と論理値形式はカスタム形式にマップされま すが、類似した形式にはなりません。
- ログ ファイルには、不明な参照ではなく、ダングリング参照のエントリ が表示されます。
- LastExecutionDate は、移行前と移行後で異なります。
- 式の中には、移行後に #DATATYPE エラーを示すものがあります。
- Desktop Intelligence で余白が縮小されている場合、Java クエリー パネル でページモードに切り替えることができません。
- 複数タブの REP ファイルが WID に変換されると、変換前に選択された タブは維持されません。
- 外部関数への呼び出しを含むセルは、空のセルに置き換えられます。
- 質問 (テキスト) が同じでも、MONO または MULTI の設定が異なり、か つ、応答の種類が文字列、数値および日付のうちで異なるクエリーは、 エラー メッセージを返します。
- 変換後、最新表示した平面チャートには軸線が示されません。
- 散布図には、計数値が正しく配置されません。
- チャート軸は、Desktop Intelligence に表示されない場合でも、Web Intelligence には表示されます。
- チャート軸値の数値形式は、Web Intelligence に変換されません。
- 2cube ドキュメントは変換されません。これらのドキュメントは、未処 理エラーを返します。
- 変換された Web Intelligence ドキュメントが InfoView で開かれている場 合、最新表示の前または後にドリル ハイパーリンクが使用できなくなり ます。Web Intelligence ドキュメントが Java レポート パネルで開かれて いる場合は、最新表示の前にドリル ハイパーリンクは使用できません が、最新表示の後には使用できるようになります。
- SQL 文の直接入力ドキュメントは、変換中に識別されません。
- 長いドキュメントのプロパティは正しく変換されません。
- 次のブレーク オプションは正しく変換されません。「重複を削除〕、「両 端揃え〕、「新ページでヘッダーを繰り返す〕および「新ページでブレー クの値を繰り返す〕は選択されません。

• 接続が関連付けられていないユニバースを基にしたドキュメントの変換 時に、レポート変換ツールがクラッシュします。

### ユーザー インターフェイス

• レポート変換ツールのタイトル バーにある [閉じる] ボタンをクリック しても、ツールは閉じません。

# ログ ファイル

- ページ セットアップおよび VBA マクロに関するログ ファイルの Focus フィールドは空です。
- 列の[文字挿入] オプションを含む REP ファイルの WID 形式への変換 に関するログ ファイルの Focus フィールドは空です。
- チャートの凡例に関するログ ファイルのエラー メッセージ テキスト に、チャートのタイトルが示されます。
- レポート変換ツールに対して監査接続が定義されている場合、監査ログに書き込もうとすると、正しいエラー メッセージ以外に、不適切なエラーメッセージ (MIGTOOL\_UNKNOWN\_ERROR) が表示されます。

回避策:レポート変換ツールを使用する前に、セントラル設定マネージャ (CCM) を使用してレポート変換ツールの監査接続を定義します。

### セントラル管理コンソール(CMC)

- Report Conversion Tool Universes フォルダに、FCtoWebI.unv ファイルが表示されません。
- Report Conversion Tool Audit Documents フォルダに、Migration Audit Statistics Template.wid ドキュメントが表示されません。

### ドキュメンテーション

『レポート変換ツール ガイド』には、ブレークが削除されたレポートのステータスは"完全に変換されました"になると記載されています。実際には、ステータスは"一部のみ変換されました"になります。

セマンティック レイヤ

#### Designer

- 派生テーブル用の SQL 構文は Informix データベースではサポートされ ていません。
- Oracle 8.x はサポートされていませんが、接続の作成ウィザードのデータ ベースミドルウェア一覧に記載されています。
- BusinessObjects のインストール後に IBM DB2 クライアントがインス トールされた場合、IBM DB2 では接続を作成できません。
  - 回避策: BusinessObjects をインストールする前に IBMDB2 クライアント をインストールします。
- メタデータ エクスチェンジ ([ファイル] > [メタデータ エクスチェン ジ]) からのユニバースの作成は、名前に特殊文字(¥/@\*スペースな ど)が使われているテーブルや列を含んでいるデータベース スキーマで はサポートされていません。
- 「次の項目で使用可能:結果]プロパティが選択されていないユニバース オブジェクトを含んでいる Web Intelligence クエリーを実行すると、エ ラーが発生します。
- SAP OLAP ユニバースを作成し、使用するには、BusinessObjects XI Release 2 Integration Kit for SAP をインストールする必要があります。
- サンプルのユニバースとレポートが〈INSTALLDIR〉\\Samples フォルダに インストールされます。ここで、〈INSTALLDIR〉は BusinessObjects のイ ンストール ディレクトリです。
  - サンプル ユニバースの Designer へのインポート中に接続エラーが発生 したり、サンプルレポートの最新表示時に「ユニバースが見つかりませ ん」というエラーメッセージが表示される場合は、オンライン版のリリー ス ノートを参照し、問題の解決方法を検索してください。
- Application Foundation 6.5.1 で作成された日本語のユニバースを、最初に Business Objects Enterprise IX Release 2 へ移行することなく開くと、UNIX プラットフォームで日本語文字が正しく表示されません。
  - 回避策:Desginerで、「ツール」>「オプション」をクリックし、「強制移 行]を選択します。その結果、ユニバースが開かれる前に日本語ユニバー スを現リリースに移行するインポートウィザードが呼び出されます。
- (複数の結果ではなく)単一の結果セットを返す Teradata マクロ / ストア ドプロシージャのみサポートされます。

# ビジネス ビュー マネージャ

結合演算子 (x+y) を含んでいる SQL 表現式を使って DataFoundation を作成 すると、ビジネスビューマネージャが突然終了します。

#### Connection Server

Connection Server がサーバー モードで実行中の場合、Web Intelligence クエ リーは実行できません。

Web Intelligence



# 式言語

#### セクション外のデータの参照

Web Intelligence は、カレント セクション外にある In または ForAll 演算子を 使用する式にあるデータを参照するようになりました。

例 セクション内の In および ForAll 演算子

ここに Web Intelligence から返された値を持つアイランド リゾート マーケ ティングユニバースを元に作成されたサンプルレポートがあります。

#### フランス

| 年      | 売上げ     | [ 売上げ ] In [ 年 ] | [ 売上げ ] ForAll [ 国 ] |
|--------|---------|------------------|----------------------|
| FY1998 | 295,040 | 1,063,554        | 1,063,554            |

これまでは、フランス セクションのみのデータが考慮されていたため、Web Intelligence からは最後の2列に295,040が返されていました。今回からは、 すべてのデータが考慮されるようになりました。

#### ReportFilter() 関数

ドキュメントには ReportFilter() 関数は空の文字列をパラメータとして使用す るとすべてのレポート フィルタを返すと記載されています。しかし実際は、 この場合、関数からは空の文字列が返されます。

#### RunningSum() 関数

RunningSum() 関数を Block キーワードを入力または出力コンテキストとして 一緒に使用すると、誤った値を返します。

#### 各言語版の問題

インターフェイス言語が日本語、韓国語、中国語(簡体字)、中国語(繁体 字) の場合、関数が英語で表示されます。

# セルの書式設定

Web Intelligence は、デフォルトで関数を含んだセルに適切なセル書式を適用 しません (デフォルトでは、Web Intelligence ではドキュメント ロケールで指 定されたセルの書式が使用されます)。たとえば、整数を出力する Rank() 関 数を含んだセルが、デフォルトで整数を表示できる書式が適用されないこと もあります。

対処方法:必要に応じてセルの書式を関数の出力結果にあわせて適切な形式 に変更します。

注 セルの書式設定を変更することと、FormatNumber() 関数を使用することは 別物であることを認識しておく必要があります。数値を Format Number() 関数 を使って書式設定すると、関数からは指定した書式で文字列が出力されます。 つまり、この関数からの出力に対してさらに乗算や除算などの計算関連の操 作は実行できないということです。

#### セキュリティ

ユニバースを表示する権限がないとそのユニバースはユニバースの一覧に表 示されませんが、Java レポート パネルで自分にアクセス権のないユニバース を元に作成されたレポートは開くことができます。

# 制限事項

Web Intelligence ソフトウェア自体はドキュメントに対して制限事項が何も ありません。たとえば、テーブルに含める列数に上限はありません。しかし、 次の要因により、制限が発生します。

- セントラル設定マネージャで設定されているパラメータ(値の一覧の最 大サイズなど)。
- Web Intelligence を実行するソフトウェアおよびハードウェアの環境。

ソフトウェアおよびハードウェアの環境による制限とは、テーブルの最大列 数、レポートに含めることができるテーブルの最大数、ドキュメントの最大 プロンプト数などであり、これらはケース バイ ケースで異なるため、 Business Objects から正確な数値を提供することはできません。

#### エラー メッセージ

エラー メッセージ WIS 00020 のヘルプ ファイルを利用できません。ヘル プのテキストは次のとおりです。

メッセージ:

クエリーによって生成された SQL は無効です。

原因:

クエリーの SQL 構文が正しくありません。

アクション:

SQL を手動で編集した場合、構文を確認します。SQL が Web Intelligence で直接生成された場合、コピーを作成して BusinessObjects 管理者に連絡 してください。

エラー メッセージ WIS 10022 のヘルプ ファイルを利用できません。ヘル プのテキストは次のとおりです。

メッセージ:

識別子 [identifier] (場所 [position]) は不正です。

原因:

式にレポートにない要素が含まれています。

アクション:

式を訂正します。

エラー メッセージ WIS 00024 のヘルプ ファイルを利用できません。ヘル プのテキストは次のとおりです。

メッセージ:

サブクエリーフィルタに互換性のない種類のオブジェクトがあります。

原因:

サブクエリーで、異なるデータ型のオブジェクト (計数と分析要素など) を比較しようとしました。

アクション:

互換性のあるオブジェクト型を使用するようにサブクエリーを編集しま

### ソースの変更

レポートのソースを変更すると、非表示の分析要素が表示されてしまいます。

#### チャート

太い罫線のある垂直平面チャートでは X 軸ラベルが表示されません。 Y 軸上に計数が 2 つある場合、積み上げ(縦)棒チャート上でデータ系列が 正しく表示されません。

#### 各言語版の問題

Web Intelligence でチャートに繁体字中国語フォント MingLiU が使用されている場合、X 軸ラベル、Y 軸ラベルおよび凡例タイトルは正しく表示されません。

回避策: Web Intelligence のチャートに繁体字中国語を表示する場合は、Arial Unicode フォントを使用します。

- 1. Arial Unicode フォントをインストールします。
- 2. Web Intelligence Report Server を停止します。

<FONTATTRIBUTE BOLD="false" ITALIC="false" LOGICAL="MingLiU" PHYSICAL="mingliu.ttc,1:ARIALUNI.TTF" />

を次のように変更します。

- <FONTATTRIBUTE BOLD="false" ITALIC="false" LOGICAL="MingLiU" PHYSICAL=ARIALUNI.TTF" />
- 4. Web Intelligence Report Server を起動します。

#### ドリル

範囲外でドリルしたあとでクエリーのドリル モードを有効にしようとすると、HTML モードでクエリーを実行するときにエラーが発生します。

クエリー ドリル モードで作業をするとき、対話型 HTML モードでテーブル を編集できないことがあります。

# ドキュメントのリンク

OpenDocument 関数の呼び出しに sType 引数への不正な値が含まれていると、Web Intelligence から HTTP 500 エラーが返されます。

# データ プロバイダ

複製したデータ プロバイダまたは新規挿入したデータ プロバイダの実行後 にデータ プロバイダを編集するとき、「元に戻す」をクリックすると Web Intelligence からエラーが返されます。

# カスタムの並べ替え

カスタムの並べ替えが定義されている分析要素を結合すると、カスタムの並 べ替えが失われてしまいます。

# Java レポート パネルと HTML クエリー パネル

- Java レポート パネルまたは HMTL クエリー パネルから別の場所に移動 する場合、ナビゲーション メッセージは表示されず、ドキュメントに加 えた変更が失われる場合があります。
- HTML クエリー パネルでは、テーブルまたはチャートの左上隅にある十 字線アイコンをダブルクリックしても「テーブルの書式設定]/「チャー トの書式設定〕ウィンドウは表示されません。
- HTML クエリー パネルでは、空のセルは編集できず、空のセルにテキス トまたは数値の文字列を入力することもできません。
- HTML クエリー パネルでは、セルをダブルクリックして編集することは できません。